

【1C1B101】教育原理		幼稚教育学科	1年前期			
2単位	必修		講義	30時間		
教員	小椋 博文					
資格・制限等	幼免・保資必修					
授業内容	教育という営みの基本原則などについて理解するとともに、今後学ぶ専門分野への道筋を明らかにするとともに、教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性、教育の思想と歴史的変遷、教育の制度、教育の実践、生涯学習社会における教育の現状と課題等について理解することを目指します。					
実務家教員	高等学校管理職・10年					
授業方法	講義を中心としますが、グループワークやそれに基づいた発表を取り入れながら進めます。知識を身に付けるだけでなく、教育や保育に対する自分の考え方の形成を目指して展開していきます。					
到達目標	知識・理解	教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想、教育に関する社会的、制度的または経営的事項について理解することができる。				
	思考・判断・表現	教育について学んだ様々な内容について、自分の考えをまとめることができる。				
	技能	他者の意見に傾聴し理解するとともに、他者の意見も踏まえて自分の考えや意見を伝えることができる。				
	関心・意欲・態度	教育・保育に対する関心・意欲を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	50	-	-	-	50
	課題提出	-	20	20	-	40
	受講態度	-	-	-	10	10
	合 計(点)	50	20	20	10	100
評価の特記事項	全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験）の受験資格はありません。自宅で取り組む課題は提出状況及び内容で評価します。受講態度は授業への取組の態度で評価します。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	課題については、提出後の授業で共有します。					
テキスト	『シリーズ知のゆりかご いまがわかる教育原理』西本 望 編 みらい(2,310円) ISBN:978-4-86015-450-9					
参考書・教材	『幼稚園教育要領』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他、『保育所保育指針』厚生労働省、いずれも平成29年。『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他、『保育所保育指針解説』厚生労働省、いずれも平成30年。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	教育の意義 [課題(予習)] 第1章(P14~P25)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
2	教育の目的 [課題(予習)] 第2章(P26~P37)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
3	教育と児童福祉のつながり [課題(予習)] 第3章(P38~P47)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
4	人間形成と家庭・地域・社会 [課題(予習)] 第4章(P48~P59)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
5	教育制度の基礎 [課題(予習)] 第5章(P60~P71)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
6	さまざまな国の教育思想家たち [課題(予習)] 第6章(P72~P83)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
7	日本の教育思想と歴史 [課題(予習)] 第7章(P84~P99)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
8	近代教育成立の歴史 [課題(予習)] 第8章(P100~P113)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
9	子ども観と教育観の変遷 [課題(予習)] 第9章(P114~P129)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
10	教育行政および学校経営の基礎 [課題(予習)] 第10章(P130~P141)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
11	保育・教育実践の基礎理論 [課題(予習)] 第11章(P142~P159)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
12	教育実践の多様な取り組み [課題(予習)] 第12章(P160~P175)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
13	生涯学習社会と教育 [課題(予習)] 第13章(P176~P191)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
14	現代の教育課題 [課題(予習)] 第14章(P192~P204)を通読する。[課題(復習)] 学びを振り返りまとめる(2~4h)					
15	まとめ(発表) [課題(予習)] これまでの学びを振り返りまとめる(2~4h)					
時間外での学修	講義の内容理解を深めるために、予習としてテキストを読んでください。また、復習として学んだ内容をまとめた提出課題については、返却後ポートフォリオとして保存しておきましょう。【この科で求められる望ましい授業外での総学修時間: 60時間】					
受講学生へのメッセージ	教育について質問のある人はオフィスアワーA304(A号館3F)で毎週金曜日の13時から14時です。気軽に訪ねてください。					

【1C1S102】教職論		幼稚教育学科	1年後期			
2単位	必修		講義	30時間		
教員	猿井 久美子					
資格・制限等	幼免・保資必修					
授業内容	子どもを保育することでその生涯に大きな影響を与える重要な仕事である保育職について、現場のしくみや具体的な事象、保護者や地域等との連携の実態などの様々な面から学び、保育士の役割や制度的位置付け、専門性、キャリア形成等について考えることで、その職務内容に関する理解を深めていきます。					
実務家教員						
授業方法	講義を中心に課題解決学習等を取り入れながら、グループワークや個別発表活動を行います。知識の理解だけでなく、保育職について自ら考え、表現する力の形成を目指して展開していく予定です。今期は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、グループワークや個別発表を実施しないこともあります。					
到達目標	知識・理解	保育職に必要な役割や倫理、保育士の位置づけや専門性、保育者の連携と協働、キャリア形成等についての基礎的な知識を理解することができる。				
	思考・判断・表現	保育職の適性について考え、指導や支援にあたって求められる基本的な思考や判断の内容がわかり、それらを適切に表現することができる。				
	技能	保育職に必要となる基礎的な技能を理解して身に付けることができる。				
	関心・意欲・態度	保育職に興味や関心をもって学ぶ意欲を高め、学習内容を積極的に身に付けようと努力して学修に取り組むことができる。				
	備考	・○・ の記号は幼稚教育学科のDP及び到達指標との関連を示します。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	45	15	-	-	60
	課題・レポート・発表	-	10	10	10	30
	受講態度	-	-	-	10	10
	合 計(点)	45	25	10	20	100
評価の特記事項						
ICT活用						
課題に対するフィードバック	提出課題は内容、表現方法、完成度等を評価してフィードバックします。					
テキスト	『保育者論（新基本保育シリーズ7）』監修 公益財団法人 儿童育成協会 編集 矢藤誠慈郎 天野珠路 中央出版(2,200円) ISBN:978-4-8058-5787-8					
参考書・教材	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年告示 文部科学省）、「保育所保育指針」（平成29年告示 厚生労働省）、「幼稚園教育要領解説」文部科学省「『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他、「保育所保育指針解説」（平成30年 厚生労働省）					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	保育者の役割・職務内容 保育所保育士および幼稚園教諭の役割と職務内容について、保育所保育指針および幼稚園教育指針から学ぶ、遊び場面での事例をもとにして、子どもの心身の発達をうながす保育や保育者の役割について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）					
2	保育者の倫理 専門的倫理の概念と必要性、法律との違いについて概観し、全国保育士会倫理綱領などをもとに保育者に必要な専門的倫理の内容を学ぶ。保育実践において生じる倫理的ジレンマの事例から了解消方法について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）					
3	保育者の資格と責務 保育士の法的・制度的特質を学びながら、その資格の在り方や責務について理解し、専門職性について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）					
4	保育者の資質・能力 保育者自身および保育の対象やチームワーク・協働性に求められる要素について学ぶとともに、自分自身の資質や能力への気づきとそれらを身に付ける方法について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）					
5	養護および教育の一体的展開 保育所保育および幼稚園での養護と教育の具体的な内容と実践について学ぶ。養護と教育が一体となった保育実践について事例をもとに考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）					
6	家庭との連携と保護者に対する支援 家庭との連携と保護者に対する子育て支援との関係、保護者が置かれている社会的な現状を把握し、保育所等における子育て支援の基本、園の特性を活かした支援、地域や関係機関との連携について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）					
7	計画に基づく保育の実践と省察・評価 計画・実践・評価・改善を継続的に実施するPDCAサイクルの必要性を理解し、保育における具体的なPDCAの在り方について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）					
8	保育の質の向上 保育の質を向上させるための具体的な手立てと評価の在り方について、個と仲間の相互関係や個を見る視点、全体を把握する視点から具体的に学ぶ。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）					
9	保育における職員間の連携・協働 保育現場における保育力は、保育士の専門的知識・技術および保育士間の協働性や教育体制、連携に大きく関わっていること保育におけるを理解し、保育における協働の広がりとその可能性について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）					
10	専門職間および専門機関との連携・協働 保育現場における専門機関との連携や協働の実際から、子どもの健康と安全を保障し、穏やかな育ちを支えていく重要性について理解し、その背景等について考察する。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）					
11	地域社会との連携・協働 保育所が地域にひらかれた社会資源として地域のさまざまな人や場とつながり連携を強めていくことの必要性を理解し、保育現場における地域社会との連携や協働がどのように実施されているか具体的に学ぶ。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）					

実施回	内容	
	授業内容・目標	
12	関係機関等との連携 さまざまな子育て家庭のニーズに対応できる地域型保育事業の概要や連携、定義について学ぶ。保育の魅力と安全対策、遊びの特徴、保育所等との連携など家庭的保育の実際と今後について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）	
13	資質向上に関する組織的取組 保育所保育指針をふまえた資質向上に関する組織的取組の考え方について学ぶ。園内研修の実践例から研修を行つ際の工夫や配慮について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）	
14	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義 保育所保育指針に示された専門性をふまえ、保育者の専門性の向上の道すじについて考え、保育者の発達段階モデルと発達をうながす要因について学習する。保育士のキャリアパスとキャリア形成の実際について学ぶ。 保育におけるリーダーシップ 個々の保育力を十分に出し合えるようなキャリアアップ研修、保育におけるリーダーシップの基盤と技法等について学び、保育の質を向上するマネジメントについて考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）	
15	筆記試験を実施する。 [課題（復習）]後期授業のまとめと自己評価を行う。（4h）	
時間外での学修	[課題]は授業の到達目標達成に必要となります。（　）の標準学修時間をめどに取り組みましょう。提出や授業で活用し、評価に含められます。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】	
受講学生へのメッセージ	保育士としての資質と能力を確実に身に付けることができるよう積極的に学習に取り組んでください。オフィスアワーは、授業後に教室で行います。	

【1C1B103】社会福祉		幼稚教育学科	1年後期			
2単位	選択		講義	30時間		
教員	堀江 法夫					
資格・制限等	保育士					
授業内容	少子高齢化の社会にあって社会福祉は全ての人にとって大切なテーマです。限られたマンパワーや財源という社会資源の中で高齢者や子どもたちの命がまもられていくにはどうしたらいいのか。社会福祉のこれまでと現在の課題を学んでいきます。					
実務家教員						
授業方法	講義を中心として基礎的知識を学び、その上で出来る限りみなで考えを深めていきます。 最終の2回程度の講義では、一人4分程度発表してもらいます。					
到達目標	知識・理解	社会福祉の歴史と実践について基本的な知識と理解を深めるようになる。				
	思考・判断・表現	社会が激変していく中で生活のしづらさを思考、判断、表現できるようになる。				
	技能	福祉の実践の場でアプローチしていく専門的な技能を深めるようになる。				
	関心・意欲・態度	共通の福祉課題に積極的に関心を持ち取り組むことができるようになる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	40	30	-	-	70
	発表・レポート	-	5	5	5	15
	受講態度	-	-	-	15	15
	合 計(点)	40	35	5	20	100
評価の特記事項	方法:筆記試験1回・レポート発表1回・自己評価毎回 その他:3分の1以上欠席した者には単位を与えない。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	毎回授業の最後に振り返りをしてもらい、次回の授業に役立てていきます。					
テキスト	テキストはありません					
参考書・教材	必要な教材資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	社会福祉を学ぶにあたって:これまでの社会の変遷と現代の生活課題について考えよう。 〔課題(準備)〕社会福祉は私たちの生活の中でどのような関係があるのかを考えておこう。(3h)					
2	社会福祉の考え方と役割:保育を含む社会福祉の視点と目的を考えよう。 〔課題(準備)〕社会福祉の考えはどうにして生まれてきたのかを考えておこう。(3h)					
3	社会福祉の歴史:欧米と日本の福祉についてこれまでのあゆみを理解しておこう。 〔課題(準備)〕特に資本主義社会の発展との関係で考えておこう。(3~6h)					
4	社会保険とは何か:社会保険や生活保護について理解しておこう。 〔課題(準備)〕社会保険の種類と生活保護の考えを調べておこう。(3h)					
5	社会福祉のしくみ:高齢者福祉と障害者福祉のしくみと法制度について理解しておこう。 〔課題(準備)〕介護保険法と障害者総合福祉法について調べておこう。(3h)					
6	社会福祉の実施機関と行財政:福祉事務所と社会福祉法人について理解しておこう。 〔課題(準備)〕児童相談所、福祉事務所、社会福祉協議会、社会福祉法人について調べておこう。(3h)					
7	社会福祉施設:社会福祉施設の種類や運営の基準について理解しておこう。 〔課題(準備)〕社会福祉施設の種類や利用方法について調べておこう。(3h)					
8	子どもの福祉:子どもの人権と児童家庭福祉について考えよう。 〔課題(準備)〕子供の福祉と向き合うにはどのような視点が必要か考えてみよう。(3h)					
9	社会福祉の専門職:社会福祉専門職の専門性と倫理について考えよう。 〔課題(準備)〕社会福祉の専門職としての資格はなぜ必要か考えてみよう。(3h)					
10	相談援助の意味と方法:ソーシャルワークの視点と展開過程について考えよう。 〔課題(準備)〕保育士等のソーシャルワークの実際はどのようにして行くのか考えてみよう。(3~6h)					
11	福祉サービスの利用支援:契約制度や権利擁護と苦情解決について理解しておこう。 〔課題(準備)〕その人にマッチした支援とは何かを考えてみよう。(3h)					
12	これまで学んできた中で大切だと思ったことを一人3~4分発表してもらいます。 〔課題(準備)〕事前に要点をまとめ提出する。(3~6h)					
13	これまで学んできた中で大切だと思ったことを一人3~4分発表してもらいます。 〔課題(準備)〕事前に要点をまとめ提出する。(3~6h)					
14	これまで学んできた中で大切だと思ったことを一人3~4分発表してもらいます。 〔課題(準備)〕事前に要点をまとめ提出する。(3~6h)					
15	定期試験 〔課題(準備)〕コロナ禍のためここで試験となります。					
時間外での学修	社会福祉の専門職は保育士や介護福祉士等があります。共通点と相違点を考えてみよう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:45時間】					
受講学生へのメッセージ	子育て環境は変化し、専門職として社会福祉の基礎的理解が不可欠です。一緒に考えていきましょう。 オフィスアワーは毎週火曜日、12:10から12:30です。非常勤講師控室です。					

【1C1B105】子ども家庭福祉		幼稚教育学科	1年前期			
2単位		選択	講義	30時間		
教員	松村 齋					
資格・制限等	保育士					
授業内容	今後、我が国は大規模な人口減少と超高齢社会となることが予想され、子ども達の生活も大きな転換期にきています。授業では、福祉職としての保育士が身につけたい、子どもを愛し、子どもを尊重し、子どもの権利を護ることの大切さを、児童家庭福祉の理念と概念を基本から学び、福祉現場で自分らしく実践するための基礎的な力を養います。主体的・対話的で深い学びを促進する状態での学修活を積極的に行い、ICTを活用した双方向型授業や自主学習支援なども必要に応じて実施する。					
実務家教員	学校教員20年					
授業方法	講義形式 授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。一部「グループディスカッション」「ビデオ視聴」なども取り入れる予定です。【課題】あらかじめ、学生ポータルや資料等で課題が明確になるよう周知を行ないます。必要に応じてオンラインによる双方向の授業も行います。フィードバックとして理解度確認レポートを回収後、必要に応じて解説致します。					
到達目標	知識・理解	児童家庭福祉の理念と概念を理解し、高度な知識と技能を身につけることができる。				
	思考・判断・表現	児童に関する具体的な事例を通じて、自分なりの保育者観を持って問題や課題に向き合うことができる。				
	技能	児童一人ひとりの考え方・学び方などの多様性を理解し、支援方法を具体的に示すことができる。				
	関心・意欲・態度	児童を取り巻く関係機関との連携のあり方を知り、様々なケースに対応できる柔軟さとコミュニケーション能力を身につけることができる。				
	備考	・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	30	10	20	-	60
	発表・レポート	-	5	10	5	20
	自己評価	5	-	5	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合 計(点)	35	15	35	15	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	活動後のレポート及び振り返りにより、個別に返答、もしくは全体の場でのフィードバックを行なう。					
テキスト	授業時にプリント配付します。					
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領 成清美治 吉弘淳一『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』学文社 吉田眞理『児童家庭福祉』青踏社 他 その他、授業時に適宜紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション 進め方、評価方法などの説明。授業の概要を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れる事(3~6h)					
2	児童家庭福祉の理念と概念について 児童家庭福祉とは 児童の権利保障について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れる事(3~6h)					
3	児童・家庭の生活実態について 少子化問題の現状と課題 家庭における育児の現状と課題について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れる事(3~6h)					
4	児童家庭福祉と保育について 児童家庭福祉の一分野としての保育 児童の人権擁護について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れる事(3~6h)					
5	児童家庭福祉に関する法制度について 制度と法体系 行財政と実施機関 児童福祉施設等について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れる事(3~6h)					
6	児童家庭福祉制度の専門職の役割と実際(1) 保育士の役割 保育士とは 保育士の業務 保育士の課題について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れる事(3~6h)					
7	児童家庭福祉制度の専門職の役割と実際(2) 教師の役割について学ぶ(幼稚園教諭 小・中・高等学校の教諭 特別支援学校の教諭) 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れる事(3~6h)					
8	児童家庭福祉制度の専門職の役割と実際(3) 医師・保健師の役割について学ぶ(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 等) 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れる事(3~6h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
9	児童家庭福祉制度における連携と実際(1) 医療関係者との連携 労働機関との連携について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)
10	児童家庭福祉制度における連携と実際(2) 教育機関との連携について学ぶ（教員、特別支援教育コーディネーター 等） 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)
11	児童相談所の役割と実際にについて 設立の意義・目的 組織体系 連携 活動の実際にについて学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)
12	児童家庭福祉の現状と課題(1) 事例検討：少子化と子育て支援サービスにおける事例より考察する 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)
13	児童家庭福祉の現状と課題(2) 事例検討：保健所と保健センターにおける事例より考察する 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)
14	児童家庭福祉の現状と課題(3) 事例検討：児童虐待防止と社会的養護の動向における事例より考察する 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)
15	特別な支援が必要な児童への対応について 事例検討：発達障がいを有する子どもたちにおける事例より考察する 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)
時間外での学修	児童家庭福祉、児童虐待、障がい児（者）施設、特別支援教育に関わる当事者の手記を最低一冊は読んでおいてください。そこから、自らの体験を通じて感じとることも大切な学修のひとつです。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	児童家庭福祉の問題は私たちの身近なところで起っています。未来の保育者として、常に日々の出来事や感じたことを相手の立場で考えられる習慣を身につけましょう。 オフィスアワーは、H号館H207号室 水曜日16時10分からです。

【1C1B106】保育原理		幼稚教育学科	1年前期			
2単位	選択		講義	30時間		
教員	名和 孝浩					
資格・制限等	保育士					
授業内容	国が「保育」や「保育所」をどのように定め、何を求めているのかを学び、保育者が自信をもって実践に取り組むため、子どもの権利を明らかにして保育の本質を学ぶ。					
実務家教員						
授業方法	講義形式で保育の本質に関して学びを深める。ICTを活用したコメントの共有により、自分の意見を深めつつ、他者の様々な視点から学びを深める。					
到達目標	知識・理解	保育の意義とその内容についての基礎理論を理解する。				
	思考・判断・表現	保育所保育指針などのガイドラインを基盤として思考・判断できる。				
	技能	一人ひとりの子どもも理解に応じた援助や環境構成ができる。				
	関心・意欲・態度	保育者として社会に貢献する意識を育てることができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	30	20	20	-	70
	レポート	-	-	-	30	30
	合 計(点)	30	20	20	30	100
評価の特記事項	レポートは毎回の小レポートを含める。受講態度は、学修への取組状況、グループワークの参加度、発表や提出物の状況などから総合的に評価します。					
ICT活用	毎時間の授業コメントや授業内での課題をインターネット上で集約し共有する。					
課題に対するフィードバック	毎時間授業コメントの共有や助言、質疑応答などをすることでフィードバックする。					
テキスト						
参考書・教材	『保育所保育指針解説書（厚生労働省版）』フレーベル館 『教育要領と保育指針 幼稚園教育要領解説（文部科学省版）』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府版）』フレーベル館					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション 保育所の法的位置づけと施設の理解 〔課題（予習）〕なぜ保育原理を学ぶのかを考える（2～4h）					
2	保育所保育指針を基盤とした保育の理念と意義 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題（予習）〕保育所保育指針を読み込む（2～4h）					
3	保育所保育指針の改訂を基盤としたねらい・内容 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題（予習）〕保育所保育指針を読み込む（2～4h）					
4	保育・子育て支援制度から見た保育の現状と課題 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題（予習）〕子ども・子育て支援新制度について調べる（2～4h）					
5	保育の基盤としての子ども観 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題（予習）〕保育現場での実践事例について調べる（2～4h）					
6	子ども理解と保育者に求められる専門性 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題（予習）〕保育現場での実践事例について調べる（2～4h）					
7	子どもが育つ環境の理解 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題（予習）〕保育現場での環境構成について調べる（2～4h）					
8	保育者の言葉かけから見る保育の実践 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題（予習）〕「叱る」と「怒る」の違いについて調べる（2～4h）					
9	子どものいざこざから見る保育内容の理解 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題（予習）〕子どものいざこざと発達について調べる（2～4h）					
10	園での生活の流れから見る保育内容の理解 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題（予習）〕保育所における1日の流れについて調べる（2～4h）					
11	保育の計画と実践の理解 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題（予習）〕保育課程とねらい・内容について調べてまとめる（2～4h）					

実施回	内容	
	授業内容・目標	
12	保育の思想と歴史的変遷 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題（予習）〕日本や諸外国の保育思想家や歴史的変遷について調べる（2～4h）	
13	保育者が語る現場の保育 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題（予習）〕自分が目指す保育者像について考える（2～4h）	
14	DVD視聴による保育実践の理解 〔課題（予習）〕認定こども園について配慮すべき事項についてまとめる（2～4h）	
15	総括 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題（予習）〕これまでのレジメや授業内容をまとめる（2～4h）	
時間外での学修	保育を取り巻く制度や政治、時事問題などに関心をもち、情報や資料を収集する。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】	
受講学生へのメッセージ	子ども・保育をめぐる諸問題を扱うため、日頃から最新の情報をキャッチできるよう意識をしておいてください。「子どもについて知りたい」「子どものよりよい環境をつくりたい」「保育の歴史について知りたい」など、自分なりの興味・関心を深めていきましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー（H211、月曜日15：00～16：00）を活用してください。	

【1C2B101】発達心理学		幼稚教育学科	1年前期	
2単位	必修		講義	30時間
教員	茂木 七香			
資格・制限等	幼免・保資必修			
授業内容	生まれてから現在まであなたの心と身体は様々な面で発達してきましたが、この後はどうなるのでしょうか？発達というと赤ちゃんから大人までの期間のみがクローズアップされがちですが、その後も人は死ぬまで発達します。この授業では私たちの人生を「生涯発達心理学」の視点で捉え、各発達段階の特徴や個体としての変化、他者や社会との関わりなどを心理的側面から理解していきます。これまでの人生を振り返りつつ、人生の終わりが来るまでの人の発達を概観します。			

実務家教員				
授業方法	基本的には講義形式ですが、課題に基づき自分自身を振り返る演習的内容や、クラウドサービス「Sli.do」への意見入力など、能動的に学ぶ手法（アクティブラーニング）を適宜取り入れます。			
到達目標	知識・理解	全ての年齢の人を対象として捉え、その人の背景にある発達段階や発達課題に関する基礎的な知識を理解することができる。		
	思考・判断・表現	目の前の対象の行為や表出を相手の発達段階や理解度を考慮して多角的に分析し、判断する視点を持つことができる。		
	技能	対象を理解し、相手の発達段階が持つ特性に合ったコミュニケーションを行うための技能を身につける。		
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自らの学びを深め、自己理解や他者理解に努める。		
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。		

観点別評価	評価の観点 評価方法	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
		授業時間内課題	5	10	10	5	30
	授業時間外課題	10	10	5	5	30	
	レポート（小レポート、最終）	10	15	-	5	30	
	受講態度	-	-	-	10	10	
	合 計(点)	25	35	15	25	100	

評価の特記事項	授業時間内課題：授業中に記入し提出するワークシートやミニツッペーパー 授業時間外課題：時間外に取り組み次回授業で提出 レポート：ループリック（評価基準）とともに課題内容を提示
I C T 活用	学修内容の理解度確認や受講生間の意見交流のためにクラウドサービスSli.doやGoogleフォームなどを適宜用いるので、携帯電話を持っている人はWifi利用登録をお勧めします。
課題に対するフィードバック	授業時間外課題は次回以降の授業内で全体へのコメントとしてフィードバックを行います。 8回目の授業は7回目授業時間外課題の小レポートを用いた反転授業を行います。 15回目の授業も14回目授業時間外課題のワークシートを用いた反転授業を行います。
テキスト	『やさしく学ぶ発達心理学』浜崎隆司、田村隆宏 ナカニシヤ出版(2,500円) ISBN:978-4779503887 補足資料を授業時に配付します。
参考書・教材	保育所保育指針 幼稚園教育要項 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他、参考図書などは授業中に適宜紹介します。

実施回	内容	
	授業内容・目標	
1	はじめに（シラバス説明、文章の書き方） 生涯発達とは：生涯発達心理学の概念 各発達段階における発達課題 発達心理学研究の方法 [課題(復習)]教科書の第1章（P1～P22）を読む（2～4h）	
2	胎児期 乳児期：胎児の身体発達 赤ちゃんの能力 [課題(復習)]教科書の第2章1節（P23～P35）を読む（2～4h）	
3	乳児期：乳児期の人間関係 アタッチメント（愛着） [課題(復習)]教科書の第2章2節（P36～P49）を読む（2～4h）	
4	幼児期：認知 情動 ことば あそび [課題(復習)]教科書の第1章～第2章（P1～P49）を読む（2～4h）	
5	幼児期：人間関係 親・友だち・きょうだい 仲間 （一部の学生はオンライン受講） [課題(復習)]教科書の第3章1～2節（P51～P79）を読む（2～4h）	
6	児童期：学習 情動 認知 （一部の学生はオンライン受講） [課題(復習)]教科書の第3章3節（P79～P94）を読む（2～4h）	
7	児童期：仲間関係の発達過程 （一部の学生はオンライン受講） [課題(復習)] 課題に基づき小レポートを作成する（4～6h）	
8	レポートの書き方 小レポートを用いた反転授業 練習問題 （一部の学生はオンライン受講） [課題(復習)] 教科書の第4章2節（P110～P122）を読む（2～4h）	
9	青年期 自己と他者 性 職業 （一部の学生はオンライン受講） [課題(復習)]教科書の第5章1節（P123～P133）を読む（2～4h）	
10	青年期 人間関係 友だち 恋愛 （一部の学生はオンライン受講） [課題(復習)]教科書の第5章2節（P133～P144）を読む（2～4h）	
11	成人期 職業 結婚 家庭 親 人間関係 [課題(復習)]教科書の第6章（P145～P166）を読む（2～4h）	
12	中年期 人生の折り返し点 人間関係 生きがい [課題(復習)]教科書の第7章（P167～P185）を読む（2～4h）	
13	老年期 人生の完成期 記憶 人格 知能 [課題(復習)]教科書の第8章（P187～P209）を読む（2～4h）	
14	ま老年期 人生との別れ 死への態度 [課題(復習)]レポートについてのワークシートを記入しGoogleフォームに入力する（4h～6h）	
15	レポート交流 全体の振り返り [課題(復習)]課題に基づいて最終レポートを書く（4～8h）	

時間外での学修	毎回の授業時間外課題や小レポートにしっかり取り組んでください。次回授業で用いることもあります(反転授業)。日常生活では、あなたも周りの人も、これまでに様々な側面での発達を経て今ここに居て、この瞬間にまだ発達しているのだということを意識し、世の中を新たな視点で捉え直してみてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	発達心理学は、あなたが今まさに生きている人生の過程についての学問です。当事者として楽しむ視点と学問として学ぶ視点の両方を持って受講すると、より深く学ぶことができます。 オフィスアワー：火曜日11時～12時（A306研究室）

【1C2B106】子どもの保健		幼稚教育学科	1年前期			
2単位		選択	講義	30時間		
教員	杉本 陽子					
資格・制限等	保育士必修					
授業内容	「子どもの保健」は、子どもの心と体の健康について考え、子どもの健康を守り、健やかな育ちを支えることについて学ぶ科目です。取り巻く環境からの影響を受けながら成長する子どもたちの特徴を理解するとともに、子どもの身体的成長や機能的発達、母子保健活動と施策、子どもと病気について学びます。					
実務家教員	病院看護師 5年以上					
授業方法	テキストと配布資料等の教材を用いた講義が中心ですが、受講生の考え方や意見を求めながら双方向で進めています。一部google classroomを用いてICT教育を行います。					
到達目標	知識・理解	子どもの成長・発達、母子保健活動と施策、子どもと病気について、基本的な知識を理解できる。				
	思考・判断・表現	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策の関連性を考え、子どもの心と体の健康を守るために取り組みと課題について考えを述べることができる。				
	技能	関連する資料から子どもの保健に関する現状や課題について説明できる。				
	関心・意欲・態度	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策について関心を持ち、積極的・主体的に学修に取り組むことができる。				
	備考	○ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	65	20	-	-	85
	レポート	-	5	5	-	10
	受講態度	-	-	-	5	5
	合 計(点)	65	25	5	5	100
評価の特記事項	レポートと受講態度は、毎回の出席カード内容から評価します。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	毎回の出席カード内容について次回授業でコメントし、フィードバックします。					
テキスト	『新基本保育シリーズ11「子どもの保健』』松田博雄、金森三枝 中央法規(2,200円)ISBN:978-4-8058-5791-5					
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス（授業の概要、評価方法）、子どもの健康と保育（子どもとは、おとなとは、養護と教育、保育における活動の場） 【課題（予習）】テキスト第1講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
2	子どもの健康概念と健康指標（健康の定義と指標、出生と子どもの死亡、子どもの疾病・異常） 【課題（予習）】テキスト第2・3講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
3	子どもの健康と母子保健施策（児童福祉法と施策、母子保健法と施策、先天性代謝異常症等マス・スクリーニング） 【課題（予習）】テキスト第3・8講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
4	地域保健活動と児童虐待の防止（地域における保健活動、児童虐待の防止等に関する法律と施策） 【課題（予習）】テキスト第4講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
5	子どもの成長と発達、身体的成长（成長発達の原則、身長・体重、脳の発達と運動機能） 【課題（予習）】テキスト第5講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
6	子どもの身体的成长と成長評価（頭部・胸部・歯・骨の成長、成長評価） 【課題（予習）】テキスト第5講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
7	子どもの機能的発達1（バイタルサイン・体温・呼吸・循環機能、水分代謝） 【課題（予習）】テキスト第6講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
8	子どもの機能的発達2（消化機能、腎泌尿器機能、中枢神経機能、血液機能、免疫機能、言語機能、発達評価） 【課題（予習）】テキスト第6講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
9	乳児期・幼児前期の子どもと家族（乳児期・幼児前期の認知発達、心理社会的発達、よくある病気） 【課題（予習）】テキスト第7・10・11・14講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
10	幼児後期・学童期の子どもと家族（幼児後期・学童期の認知発達、心理社会的発達、よくある病気） 【課題（予習）】テキスト第12・13・14講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
11	子どもの安全と事故予防（子どもの不慮の事故の特徴、家庭内や地域で起こりやすい事故、子どもの事故予防と環境の安全） 【課題（予習）】ニュースで報じられた子どもの事故について情報収集する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
12	子どもの遊びと保育（遊びの意義・目的・分類、病気の子どもにとっての遊びの意義） 【課題（予習）】現代における子どもの遊びの特徴について情報収集する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
13	子どもの食と栄養（子どもの食と栄養の特徴、乳児期・幼児期・学童期の食と栄養の特徴） 【課題（予習）】現代における子どもの食の特徴について情報収集する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
14	子どもの疾病予防と予防接種（子どもの疾病予防、予防接種法と施策） 【課題（予習）】テキスト第15講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
15	子どもと病気（子どもの病気の理解、病気が子どもと家族に及ぼす影響） 【課題（予習）】テキスト第9講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					

時間外での学修	毎回の授業時間外課題にしっかり取り組んでください。学んだことを日常生活で接する子どもの様子で確認してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	日ごろから子どもに関するニュースや出来事に関心を持ち、日常生活で接する子どもの様子を意識的に観察してください。オフィスアワーは毎週火曜日10時～12時 I 319研究室（I号館3階）で対応します。

【1C3S202】保育内容「人間関係」の指導法		幼稚教育学科		1年後期		
教員	川村 弘子	1単位	必修	演習	30時間	
資格・制限等	幼免・保資必修					
授業内容	領域「人間関係」のねらい及び内容について、子どもの姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、子どもの発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構築し、実践する方法を身につける。					
実務家教員	幼稚園教諭：38年					
授業方法	講義を中心に、小グループでの討議や発表など演習形式も取り入れて、子ども理解を深める。様々な事例を通して、子どもの発達や実態を理解した上で、具体的な指導案作成・模擬保育・ロールプレイ・振り返り・評価などを行なが指導法を身につけられるようにする。					
到達目標	知識・理解	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、子どもの自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な経験や指導上の留意点を理解することができます。				
	思考・判断・表現	様々な事例から子どもの実態を知り、それらを分析・判断をして実践に活かそくうことができる。				
	技能	子どもの心情・認識・思考及び動きなどを踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができます。				
	関心・意欲・態度	近年の子どもを取り巻く環境の変化などに関心をもち、子どもの望ましい成長に新たな方法や手立てを考え、実践しようとすることができる。				
	備考	・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを表しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	受講態度	-	10	-	10	20
	課題・演習内容	15	-	15	-	30
	授業ごとの振り返り	-	10	-	10	20
	最終レポート	30	-	-	-	30
	合 計(点)	45	20	15	20	100
評価の特記事項	授業ごとに振り返りを行ない、疑問に思うことや確認したいことは積極的に質問したり、自分で調べたりすることができます。課題は期日までにまとめて次の学修に生かすことができる。受講態度は、学習への取り組み、グループワークや発表なども含めて評価します。3分の1以上欠席した学生は単位不認定です。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	提出課題については個別にコメントをしたり、次回の授業で紹介をして解説を加えます。					
テキスト	受講時に資料を配布する。					
参考書・教材	文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、徳安敦・坂上節子編著『保育内容「人間関係」』青踏社、田村美由紀・室井佑美著『療育 人間関係ワークブック』萌文書林					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における「人間関係」の全体像をつかむ - これからの社会を生き抜く人を育てるために【課題(準備)】幼稚園教育要領・保育所保育指針を熟読する(4h)					
2	保育者の信頼関係と園生活における安定感を形成する援助のあり方 - 個々への丁寧なかかわりと集団保育の展開【課題(準備)】自身の幼少期における人とのかかわりについて、心に残るエピソードをまとめる(4h)					
3	自立心を育む援助 - 子どもの育ちの姿に沿った必要な援助と環境構成を考える【課題(復習)】学修した内容を復習し、次回の授業に繋げる(4h)					
4	きまりをめぐる様々な子どもの葛藤と援助 - 家庭生活・園生活・社会生活のきまりと子どもに経験させたい内容を考える【課題(準備)】家庭、園、社会生活のきまりについて情報を収集する(4h)					
5	ルールのある遊びと援助 - 葛藤しながら自分たちにとって意味のあるきまりをつくる【課題(準備)】ルールのある遊びの指導案を作成する(4h)					
6	個と集団の育ちを考える - 子ども同士のかかわり合いを生かす間接的援助のあり方(模擬保育)【課題(準備)】指導案をもとにグループ毎に模擬保育の準備をする(4h)					
7	個と集団の育ちを考える - 子ども同士のかかわり合いを生かす間接的援助のあり方(模擬保育)【課題(準備)】指導案をもとにグループ毎に模擬保育の準備をする(4h)					
8	友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助のあり方 - いざこざと保育者の援助【課題(復習)】事例を通して子どもの気持ちや保育者の願いを考えてまとめる(4h)					
9	自他の気持ちの違いに気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助のあり方 - 折り合いがつかない事例を考える【課題(復習)】事例について考えをまとめる(4h)					
10	協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育展開を考える - 見通しや振り返りの工夫を意識して【課題(復習)】模擬保育の評価と振り返りを考える(4h)					
11	子どもにとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える - 協同的な活動の1か月の展開を考える【課題(復習)】行事を踏まえた保育計画を作成する(4h)					
12	幼小の交流活動を考える - 相互主体的で互恵的な活動の工夫と展開【課題(準備)】幼小の交流活動について情報を収集する(4h)					
13	小学校以降の生活や学習で生かされる力 - 「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を軸に幼小接続期を考える【課題(準備)】「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」について理解を深める(4h)					
14	地域の中の幼稚園・保育所 - 様々な人とのかかわりにある特徴を捉えて、乳幼児期に経験させたい地域の人とのかかわりを考える【課題(準備)】乳幼児と地域の人との交流について情報を収集する(4h)					
15	多様な人、多様な子ども達とのかかわりの中で豊かに生きる子ども - 子どもの経験を育ちへ根付かせる長期的な計画と保育者の援助を考える。領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ【課題(準備)】人間関係について様々な問題や今後の課題をまとめる(4h)					
時間外での学修	学んだ内容について各自、様々な事例を収集し、より子ども理解を深めていくことが大切です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					

受講学生への
メッセージ

「人間関係」にかかる活動は広範囲にわたります。新聞やテレビの報道、特集番組、社会事象など子どもに関する内容に目を向け、多くの関心を持って授業に臨んで欲しいと思います。オフィスアワーは授業後に教室で行います。気軽に声をかけてください。

【1C3S204】保育内容「言葉」の指導法		幼稚教育学科	1年後期			
教員	今村 民子	1単位	必修	演習		
資格・制限等	幼免・保資必修					
授業内容	幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めます。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程をふまえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけています。					
実務家教員	小学校、幼稚園教諭9年					
授業方法	講義と演習。グループワークをして発表する内容もあります。					
到達目標	知識・理解	幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容を理解している				
	思考・判断・表現	幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している				
	技能	領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる				
	関心・意欲・態度	具体的な保育を想定した指導案の作成や、模擬保育の振り返りを通して保育を改善する視点を身につけることができる				
	備考	・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	課題レポート	30	-	-	-	30
	毎回のレポート・作成ノート	-	30	10	-	40
	演習への姿勢	-	-	20	-	20
	受講態度	-	-	-	10	10
	合 計(点)	30	30	30	10	100
評価の特記事項	課題レポートは、テーマに沿って作成します。学んだことをまとめることができ、さらに自分の体験や感想が加わることが望ましい。毎回のレポートは授業の学びや感想をまとめる、作成ノートは主に授業でのノートテイク、演習への姿勢はことば遊びなどに興味関心を持って積極的に取り組むことができる。					
I C T活用	授業の最初に、模範的なレポートを紹介してコメントします。					
課題に対するフィードバック	授業の最初に、模範的なレポートを紹介してコメントします。					
テキスト	『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域言葉』無藤 隆 監修 / 宮里暁美編者代表 株式会社萌文書林(2,160円) ISBN:978-4-89347-259-5					
参考書・教材	『幼稚園教育要領』フレーベル館 『保育所保育指針』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館 その他授業で紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業内容のオリエンテーション 前期授業「幼児と言葉」とのつながり。絵本ノートを振り返る。 [課題(復習)]今日の内容を振り返って、言葉についての自己課題をみつける(1h)					
2	幼稚教育の基本・保育者のさまざまな役割 [課題(復習)]今日の内容を振り返って、テキストを読む(1h)					
3	領域「言葉」と他領域の関係ー幼稚園教育要領他にあるねらいと内容を理解する [課題(復習)]今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)					
4	乳幼児期の発達と領域「言葉」 [課題(復習)]今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)					
5	多様な感情体験とことば(1) - 感情体験と快・不快の感情 [課題(復習)]今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)					
6	多様な感情体験とことば(2) - 自分の思いや気持ちを主張し、気持ちを整える [課題(復習)]今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)					
7	多様な感情体験とことば(3) - なかまと意見を調整しながら話し合う [課題(復習)]今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)					
8	信頼関係から生み出されることは(1) - ことばにならない表現を受け止める [課題(復習)]今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)					
9	信頼関係から生み出されることは(2) - 生活体験を共有する [課題(復習)]今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)					
10	自分の考えや思いを伝えことば [課題(復習)]今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む。(1h)					
11	ごっこ遊びとことば(1) - イメージをふくらませる [課題(復習)]今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)					
12	ごっこ遊びとことば(2) - 役割とことば [課題(復習)]今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)					
13	「いま、ここ」を超えて広がる世界とことば(1) - 書きことば(文字)が広げる世界 [課題(復習)]今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)					
14	「いま、ここ」を超えて広がる世界とことば(2) - 文字を自分のものにする [課題(復習)]今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)					
15	子どもの言葉を育む構想 - 領域「言葉」に関する具体的な保育場面を想定した指導案の作成する。事例からの学びをまとめて課題レポートを作成する。 [課題(復習)]今日の内容を振り返りノートを確認する。全体のまとめをし試験の準備をする(1h)					
時間外での学修	予習としてテキストを読んで来てください。事例を中心にして学んだことを復習するようにしましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間 : 15時間】					

受講学生への
メッセージ

前期「幼児と言葉」で行った言葉遊び、絵本や紙芝居などの内容に引き続き関心を持って、幼児の言葉の世界を楽しめる授業にしたいと思っています。オフィスアワー：H204研究室月曜16:20～17:00

【1C3B108】乳児保育		幼児教育学科		1年前期		
教員	今村 民子	2単位	選択	講義	30時間	
資格・制限等	保資必修					
授業内容	人の一生の中で著しい成長発達を遂げる3歳未満児の体と心の発達について、月齢ごとの特徴を学んで保育者としてどのように接すればよいかを理解します。また、3歳未満児の保育内容と方法を理解して、保育に必要な知識や技術を身につけられるようにします。近年注目されている家庭にいる3歳未満児に求められている保育（子育て支援）についても学んでいきます。					
実務家教員						
授業方法	講義が中心ですが、グループワーク、調査や発表の演習も行います。					
到達目標	知識・理解	子どもの年齢による発達特性や成長のようす、育児で留意することについて理解する				
	思考・判断・表現	保護者とともに子育していく姿勢を持って、子どもの行為の意味に気づき、それを分析・判断し実践に活かそうとすることができる				
	技能	子どもの成長発達に応じた生活の課題や遊びについて、保育技術を活用した指導や支援ができる				
	関心・意欲・態度	保育者として必要な専門的知識を活かしたコミュニケーション能力を身につける				
	備考	・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	期末筆記試験	30	-	-	-	30
	レポート	-	30	-	-	30
	授業への姿勢	-	-	20	-	20
	受講の態度	-	-	-	20	20
	合 計(点)	30	30	20	20	100
評価の特記事項	レポートは、毎時間の内容を振り返り自分の考え方や感想をまとめること。 授業への姿勢は、乳児保育に興味関心を深く持ち知識技術を習得しようと努力する姿を評価する。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	授業の最初に前回の模範レポートを紹介してコメントします。					
テキスト	『やさしい乳児保育』神藏 幸子他編著 青緒社 ISBN:978-4-902636-17-8 C3037					
参考書・教材	河原佐公・古橋紗人子『シードブック乳児保育科学的観察力と優しい心』建帛社 田中真介『発達がわかれれば 子供が見える』ぎょうせい 『保育所保育指針』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション：進め方、評価方法などの説明。授業の概要を知る。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、授業概要について理解を深める(4h)					
2	乳幼児保育について1：乳児保育の概念、乳児保育の意義について学ぶ。 [課題(復習)]資料を整理して理解を深め、身近なニュースに关心を持つ(4h)					
3	乳児保育の意義 乳児保育の変遷について学ぶ [課題(復習)]資料を整理して理解を深め、家族が子ども時代を送った頃の話をきいてまとめる(4h)					
4	子育てをめぐる親の意識と状況：子育てをする家庭の状況を知り、子育てに対する不安や母親のメンタルヘルス、育児に参加する父親のあり方について理解を深める。 [課題(復習)]資料を整理し、子育てる母親、育児をする父親に関する記事をみる(4h)					
5	乳児期の発達の様子について：自分や親しい人などの母子手帳を見ながら、出生時、発育発達の様子を知り、気づいたことをまとめる。 [課題(復習)]資料を整理する。記録した保護者の気持ちを想像してみる(4h)					
6	乳児と保育園の一日：乳児が保育園で1日過ごす内容について。 [課題(復習)]資料を整理し、乳児の保育園での生活スケジュールを確認する(4h)					
7	乳児保育(3歳未満児保育)の保育内容について [課題(復習)]資料を整理し、3歳未満児の保育の内容についてまとめる(4h)					
8	おおむね6か月未満の保育：0～3ヶ月の発達のようすと関わり方について。 [課題(復習)]資料を整理し、0～3ヶ月の乳児の姿をまとめる。(4h)					
9	6か月未満の保育：4～6ヶ月の発達のようすと関わり方について。 [課題(復習)]資料を整理し、4～6ヶ月の乳児の姿をまとめる。(4h)					
10	満1歳未満児の保育1 出生から6ヶ月未満のころ：発達のようすと特徴。 [課題(復習)]資料を整理し、出生から6ヶ月未満の乳児の姿をまとめる。(4h)					
11	満1歳未満児の保育2 おおむね6ヶ月から1歳未満のころ：関わり方の配慮、生活や遊びの援助。 [課題(復習)]資料を整理し、6ヶ月から1歳未満の乳児の姿をまとめる。(4h)					
12	1歳児の保育1：発育・発達の特徴について。 [課題(復習)]資料を整理し、1歳児の姿についてまとめる。(4h)					
13	1歳児の保育2：生活や遊びの援助について [課題(復習)]今日の資料を整理し、1歳児の生活や遊びの様子についてまとめる。(4h)					
14	2歳児の保育1：発育・発達の特徴について。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、2歳児の姿についてまとめる。(4h)					
15	2歳児の保育2：生活や遊びの援助について。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、2歳児の生活や遊びの様子についてまとめる。(4h)					
時間外での学修	保育者になる者という立場に立って、自分自身の成長の様子を振り返ってみたり、自分を育てていただいだ方々に、おなかにいたことや生まれた時のこと、小さい頃どのように育てられたかなどを聞いてみてましょう。「母子手帳」は必ず使いますので自分の手元に用意をしましょう。そうした機会を利用してもううちの人に養育の様子を聞かせてもらいましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					

受講学生への
メッセージ

講義では知識を身につけ、演習では乳児にどのように接すればいいのか体験を通して学んでいきます。
発達を知って保育を見通す力がつくようになります。オフィスアワー：H204研究室金曜16:20～17:00

【1C3S209】乳児保育		幼稚教育学科	1年後期			
1単位	選択		演習	30時間		
教員	今村 民子					
資格・制限等	保資必修					
授業内容	人の一生の中で著しい成長発達を遂げる3歳未満児の体と心の発達について、月齢ごとの特徴を学んで保育者としてどのように接すればよいかを理解します。3歳未満児の保育内容と方法について理解して、保育に必要な知識や技術を身につけられるようにします。前期に学んだことを基礎にしてさらに実践に役立つ演習をおこないます。また子育て支援についても地域の現状を学んでいきます。					
実務家教員						
授業方法	講義と演習。演習ではグループでの討議や発表を行います。					
到達目標	知識・理解	子どもの年齢による発達特性や成長のようす、育児に留意することについて理解する				
	思考・判断・表現	保護者とともに子育していく姿勢を持って、適切な保育や相談支援ができる				
	技能	子どもの成長発達に応じた生活の課題や遊びについて、保育技術を活用した指導や支援ができる				
	関心・意欲・態度	保育者として必要な専門的知識を活かしたコミュニケーション能力を身につける				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	期末筆記試験	30	-	-	-	30
	レポート	-	30	-	-	30
	演習への姿勢	-	-	20	-	20
	受講の態度	-	-	-	20	20
	合 計(点)	30	30	20	20	100
評価の特記事項	レポートは、毎回の内容を振り返り、自分の考え方や感想をまとめること。 演習への姿勢は、保育技術の習得に興味関心をもって意欲的に努力すること。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	毎時間の最初に模範レポートを紹介してコメントします。					
テキスト	『やさしい乳児保育』神藏 幸子 他著 青鞆社 ISBN:978-4-902636-17-8 C3037					
参考書・教材	『保育所保育指針』フレーベル館 『幼保連携認定こども園教育保育要領』フレーベル館 乳児保育研究会『乳児の保育新時代』ひとなる書房					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業内容のオリエンテーション、乳児保育の体験を振り返る。ボランティア実習で出会った乳児保育の感想を伝えあう。[課題(復習)]ボランティア実習の感想交流をして感じたことをまとめる。(1h)					
2	乳児保育の環境：乳児の視点でとらえる環境の重要性を知り、基本的な環境や保育指針に示された環境について知る。課題のについて振り返る。 [課題(復習)]資料を整理する。乳児保育の環境の重要性についてまとめる。(1h)					
3	乳児保育における保健活動：よくみられる疾患の症状を知り、保育者として留意すべき点について学ぶ。 課題の確認する。[課題(復習)]資料を整理する。疾患の症状、留意点について表を作成する。(1h)					
4	乳児の集団保育と安全：キーワードの振り返り確認。予防、健診、予防接種等について理解を深める。乳児に多い症状の観察と看護、注意事項を知る。課題の確認をする。 [課題(復習)]資料を整理する。乳児に多い症状を表にまとめる。(1h)					
5	保育の記録と計画(1)記録について：保育記録の意義やとり方について学ぶ。課題の確認をする。 [課題(復習)]資料を整理する。記録の大切さについて考えをまとめる。(1h)					
6	保育の記録と計画(2)計画について：保育計画について具体的な例をしながら知識をもつ。課題の確認をする。 [課題(復習)]資料を整理する。保育計画の具体例を資料から探す。(1h)					
7	乳児のあそびと環境：あそびのあり方：あそびの重要性を知ってかかわり方を考える。課題の確認をする。 [課題(復習)]資料を整理する。あそびについての考えを持ちレポートする。(1h)					
8	乳児の発達を考えたあそび：年齢別に遊びの特徴と内容を知って、遊びのレパートリーを増やしていく。 0歳児むけの簡単なおもちゃをつくる。課題の確認をする。 [課題(準備)]おもちゃづくりに必要な持ち物を確認する。(1h)					
9	乳児の発達に即したおもちゃを手作りしよう：参考資料をもとにして、未満児向けのおもちゃを自分たちでつくる計画を立てる(図書館などを利用する)。課題の確認をする。 [課題(復習)]資料を整理する。あそびの必要性を考えた計画書の見直し。(1h)					
10	未満児の発達に即した手作りおもちゃの作成：作成に必要な廃材を準備して作りきり、発表できるようにする。課題の確認をする。[課題(復習)]手作りおもちゃ作成の準備をする。(1h)					
11	作成した手作りおもちゃを見合う：作ったおもちゃを発表して評価しあう。 [課題(復習)]作成した手作りおもちゃの発表原稿の見直しをする。(1h)					
12	あそびと文化1 絵本やわらべうたというあそび文化や伝承あそびについて学ぶ。課題の確認をする。 [課題(復習)]資料を整理し、絵本やわらべうたを自分のものにする。(1h)					
13	あそびと文化2 未満児向けの手作り絵本を考えて作ってみる。課題の確認をする。 [課題(復習)]資料を整理し、絵本の題材を考えてくる。(1h)					
14	子育て支援事業について：親が子育てを楽しみ、希望がもてる支援について。課題の確認をする。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、身近にある子育て支援事業を探す。(1h)					
15	保育者の配慮と心構え：保育現場で子どもや親と接する心構えや職員間の配慮について学ぶ。課題の確認をする。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、全体内容の振り返りをする。(1h)					
時間外での学修	日頃から赤ちゃんや1、2歳の子ども、親子に関心を持って観察してみましょう。また、あなたの住んでいる地域ではどのような子育て支援をしているのか関心を高めることも必要です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					

受講学生への
メッセージ

講義で知識を身につけ、演習では乳児にどのように接すればいいのか体験を通して学んでいきます。発達
を知つて保育できる力を身につけましょう。
オフィスアワー：H204研究室毎週金曜16:20～17:00

【1C3S210】子どもの健康と安全		幼稚教育学科		1年後期		
教員	杉本 陽子・清水 美恵・遠渡 紹代	1単位	選択	演習	30時間	
資格・制限等	保資必修					
授業内容	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や子どもの健康について理解する。子どもに多い病気や症状の特徴を理解するとともに、保育者として子どもが適応的な生活を送るための支援方法、子どもを取り巻く多機関との連携について学ぶ。					
実務家教員	清水：病院看護師5年以上、杉本：病院看護師5年以上、遠渡：病院看護師5年以上					
授業方法	テキストと配布資料等の教材を用いた講義を中心に進めていく。					
到達目標	知識・理解	子どもの保健的観点を踏まえた保育環境について理解できる。 子どもの主な疾患や症状について理解できる。				
	思考・判断・表現	病気をもつ子どもへの支援について考えることができる。				
	技能	子どもの症状の観察について説明できる。 子どもの健康や安全について説明できる。				
	関心・意欲・態度	病気をもつ子どもの健康的な生活や子どもを取り巻く多機関との連携に関心をもち、積極的・主体的に学修に取り組むことができる。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	レポート	30	30	30	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合 計(点)	30	30	30	10	100
評価の特記事項	受講態度はレポートから評価します。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	講義終了後に学びをレポートし、次回の授業でフィードバックします。					
テキスト	『子どもの保健』松田博雄・金森三枝 中央法規(2,200円) ISBN:978-4-8058-5791-5 『子どもの健康と安全』松田博雄・金森三枝 中央法規(2,200円) ISBN:978-4-8258-5796-0					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1 清水	ガイダンス：授業の進め方 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
2 清水	保育における子どもの健康管理と観察：健康管理の意義と観察のポイント [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
3 清水	アレルギー疾患をもつ子ども：アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、気管支喘息 [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
4 清水	代謝性疾患、腎疾患をもつ子ども：糖尿病、ネフローゼ症候群 [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
5 清水	子どもに多い症状：熱性けいれん、脱水、嘔吐、下痢、ショック [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
6 杉本	感染症をもつ子ども：小児に多い感染症、川崎病 [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
7 杉本	病児保育計画：医療保育、病児・病後児保育、病児保育計画 [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
8 杉本	病児保育計画：日常生活と病後児保育、病児保育計画の立案 [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
9 杉本	ハイリスク新生児：低出生体重児 [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
10 杉本	予後不良の子ども：小児がんをもつ子どもの支援 [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
11 遠渡	呼吸器疾患、消化器疾患をもつ子ども：気管支炎、肺炎、クルーブ症候群、腸重積症、食中毒 [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
12 遠渡	先天性疾患をもつ子ども：染色体異常(ダウン症候群)、先天性奇形(唇裂・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症)、先天性心疾患 [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
13 遠渡	障害をもつ子ども：脳・神経疾患をもつ子どもと家族の生活支援、二分脊椎、水頭症、脳性麻痺、てんかん [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
14 遠渡	障害をもつ子ども：発達障害をもつ子どもの生活 [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
15 遠渡	子ども虐待の対応と予防：子ども虐待の対応や予防に関する連携 [課題(予習)授業内容について予習する(1h)][課題(復習)学びを振り返りまとめる(1h)]					
時間外での学修	[課題(予習)(復習)]は授業の到達目標達成に必要となる内容であり、確実な理解につなげるためです。 （）の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学習しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学習時間：30時間】					
受講学生へのメッセージ	健康に問題をもちながら生活している子どもにとって、子どもらしく成長発達していくためにどのような支援が必要なのか考えてみましょう。 オフィスアワーは担当教員が授業で説明します。					

【1C3B211】障がい児保育		幼稚教育学科	1年後期			
1単位	選択		演習	30時間		
教員	上杉 晴美					
資格・制限等	保育士必修					
授業内容	障がい児保育は「保育の原点である」という観点から (1) 障がいを持つ子どもの保育の意義と必要性、 (2) 障がいを持つ子どもの心身の発達、 (3) それぞれの障がいの基礎的な知識と保育での配慮について学びます。					
実務家教員	「幼稚園教諭23年」「ことばの教室14年」					
授業方法	講義を中心として障がいに対する認識を深め、ワークシートやグループワークなどを活用し、学生たちが主体的に考えたことを発表する活動などを含めて授業を開催していきます。また、映像教材や絵本などを使って事例に触ながら実践的に学びます。					
到達目標	知識・理解	障がいについての基礎的な知識について理解する。				
	思考・判断・表現	障がい特性や支援についてまとめたり、発表したりする事ができる。				
	技能	障がいを持つ子どもの援助について考えることができる。				
	関心・意欲・態度	積極的に資料を調べたり、考えをまとめたりする事ができる。				
	備考	・・・の記号は、DP- 到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	30	-	15	-	45
	レポート・自己評価	-	30	-	5	35
	受講態度	-	5	-	15	20
	合 計(点)	30	35	15	20	100
評価の特記事項						
ICT活用						
課題に対するフィードバック	毎回授業初めに、前回のワークシートより学生の率直な感想や意見、質問などをフィードバック（実物投影機使用、無記名）します。そのことを通じ共感したり疑問に思っていたことを解決できる場にしていきたいと思います。その積み重ねが、障がいへの捉えの深まりとなり、障がい児保育への関心・意欲・態度に繋がっていくと考えます。					
テキスト	『特別支援教育・保育概論 - 特別な配慮を要する子どもの理解と支援』 尾野明美 小渕真衣 奥田倫子 編著 萌文書林(2,000円) ISBN:978-4-89347-320-2 C3037					
参考書・教材	保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育保育要領					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション（この講義で大切にしたいこと、授業の進め方、学修評価等について） 障がい児保育を支える理念（1）[障がい]の捉え方や障がい児保育の歴史について学ぶ [課題(予習)]あなたが知っている障がいを持っている人々について、まとめておきましょう。（1-2h）					
2	障がい児保育を支える理念（2）障がい者差別解消法とその考え方や取り組みについて学ぶ [課題(予習)]事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）					
3	障がい児の理解と保育（1）肢体不自由児の理解と支援について学ぶ [課題(予習)]事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）					
4	障がい児の理解と保育（2）知的障がいの子どもの理解と支援について学ぶ [課題(予習)]事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）					
5	障がい児の理解と保育（3）視覚障がい・聴覚障がいの子どもの理解と支援について学ぶ [課題(予習)]事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）					
6	障がい児の理解と保育（4）ことばの発達に障がいのある子どもの理解と支援について学ぶ [課題(予習)]事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）					
7	障がい児の理解と保育（5）発達障がい児の理解と援助 注意欠如・多動性障がい（ADHD）の子どもの理解と支援について学ぶ [課題(予習)]事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）					
8	障がい児の理解と保育（6）発達障がい児の理解と援助 自閉症スペクトラム（ASD）等の子どもの理解と支援について学ぶ [課題(予習)]事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）					
9	障がい児の理解と保育（7）発達障がい児の理解と援助 学習障がい（LD）の子どもの理解と支援について学ぶ [課題(予習)]事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）					
10	障がい児の理解と保育（8）重症心身障がい児、医療的ケア児の子どもの理解と支援について学ぶ [課題(予習)]事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）					
11	障がい児、その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際（1） 「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の作成する意義と方法について学ぶ [課題(予習)]事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）					

内容	
実施回	授業内容・目標
12	障がい児、その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際（2）（3） 「個々の発達を促す生活や遊びの環境」「子ども同士の関わりと育ち合い」 【課題（予習）】事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）
13	障がい児、その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際（4）（5） 「障がい児保育における子どもの健康と安全」「職員間の連携・協働」について学ぶ 【課題（予習）】事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）
14	家庭及び自治体・関係機関との連携 「保護者・家族支援」「小学校等との連携」「自治体や関係機関との連携」について学ぶ 【課題（予習）】事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）
15	障がい児、その他の特別な配慮を要する子どもの保育にかかる現状と課題 期末試験 「保健・医療」「福祉・教育」における現状と課題について学ぶ 【課題（予習）】事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめたり、わからない用語について調べたりしておきましょう。（1-2h）
時間外での学修	事前にテキストを読み、自分なりの考えをまとめておきましょう。また、参考となる本や雑誌など進んで読むようにしましょう。また、保育の場で、子ども達とどのように関わるのかをイメージしてみましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	子ども達は遊ぶ中で、関わりが深まり互いに成長していきます。ひとり一人の子どもの育ちに目を向けながら、子ども達がのびのびと充実した生活が送ることができる保育をめざしましょう。 オフィスアワーは、講義終了後教室にて行います。

【1C3B218】保育入門演習		幼児教育学科	1年前期			
1単位	必修		演習	30時間		
教員	名和 孝浩・大橋 淳子					
資格・制限等	特になし					
授業内容	保育所・幼稚園の集団生活の実際を知り、生活では欠かせない「手遊び」「読み聞かせ」等の活用方法を体験を通して学びます。また、日常の生活の中で、絵本の読み聞かせや手遊び自然な流れで演じる技術もマスターし、子どもの心をつかむことのできる保育者としての感性や資質の向上を図ります。					
実務家教員	大橋：幼稚園教諭・保育士28年					
授業方法	この授業は、1「手遊び」2「読み聞かせ」3「現場体験」の3つを体験します。「手遊び」は、様々な手遊びを楽しみ保育者と子ども役を交替しながら全員の前で演じる体験を積み重ねます。「読み聞かせ」は年齢や発達段階に合った絵本の選び方や読み方を学習し、グループごとにお話を組み立て発表します。「現場体験」は保育現場における子どもの生活を見学し、子どもの実態や遊びの様子を理解します。					
到達目標	知識・理解	幼児の実態を理解し、幼児になったつもりで手遊び・読み聞かせ等を仲間と共に楽しむことができる。				
	思考・判断・表現	豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者像を常に描き、研鑽に努めることができる。				
	技能	季節や年齢に応じた手遊び・読み聞かせ等を子ども達に楽しく伝える保育技術を身につけることができる。				
	関心・意欲・態度	グループ発表や表現活動を通して、コミュニケーション能力を身につけ、誰とでも柔軟に関わることができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	演習・見学態度	-	-	-	30	30
	達成度	-	10	20	-	30
	発表・見学内容	10	10	10	-	30
	レポート	10	-	-	-	10
	合 計(点)	20	20	30	30	100
評価の特記事項	この科目は1手遊び、2読み聞かせ・すばなし、3現場体験を履修した上で合算し、単位数1単位の評価とします。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	手遊びや読み聞かせの練習・発表に対しての評価や助言を行う。 現場体験は各自の体験を振り返り、レポートに対する添削やコメントを行う。					
テキスト						
参考書・教材	必要に応じてプリントを配布します。					
実施回		内容 授業内容・目標				

実施回		内容 授業内容・目標
【オリエンテーション】第1週（1回）		<p>第1回 授業内容に関するがダンスと各課題の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 1：手遊び ・手遊びの意義と効果について考える。 ・自己紹介と名前呼び遊び <p>[準備・課題]手遊びの意義について記録にまとめる。(1h)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2：読み聞かせ ・子どもにとって絵本とは何かを考える。 ・子どもの頃に読んでもらった経験の中から読み聞かせのもつ意味を考える。 ・話し方や表情、演じ方のポイントを修得する。 <p>[準備・課題]読み聞かせの中で育てたいもの別に分類しそれぞれ代表的な絵本を2冊ずつ選ぶ 好きな絵本を練習する。(1h)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3：現場体験 ・授業ガイドブック、現場見学の留意点・マナーについて確認 <p>[準備・課題]現場見学の視点や特に知りたいことなどをまとめておく。(2h)</p>
【手遊び】（5回）		<p>第1回 0～2歳児の手遊びの学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1対1の触れ合い遊びや古くから伝わる手遊びの技術を習得し、自分なりの演じ方を身につける <p>。</p> <p>[準備・課題]次回発表できるように、今日学んだ手遊びの内1つを練習しておく。(1h)</p> <p>第2回 0～2歳児の手遊びの発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1対1の触れ合い遊びや古くから伝わる手遊びの技術を習得し、自分なりの演じ方で発表する。 <p>[準備・課題]発表した内容をまとめる。(1h)</p> <p>第3回 3～5歳児の手遊びの学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上児向けの手遊びのポイントをつかみ、手遊びの技術を習得し自分なりの演じ方を身につける <p>。</p> <p>[準備・課題]学習の成果を保育者になったつもりで個人発表できるように、今までに学んだ手遊びの内1つを練習しておく。(2h)</p> <p>第4回 3～5歳児の手遊びの発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上児向けの手遊びの技術を習得し、自分なりの演じ方で発表する。 ・基本の手遊びを年齢に応じて発展させる。（個人発表） <p>[準備・課題]学習の成果を保育者になったつもりで個人発表できるように、今までに学んだ手遊びの内1つを練習しておく。(2h)</p> <p>第5回 手遊び発表のまとめ(グループ討議)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表した手遊びの内容についてまとめ、振り返る。 ・保育現場での活用方法やポイントを討議し、発表する。 <p>[準備・課題]今までの発表内容をまとめておく。(1h)</p>
1～15		<p>【読み聞かせ・すばなし】（5回）</p> <p>第1回 絵本の読み聞かせの学修</p> <p>0～2歳児への読み聞かせと発展遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1対1のふれあいを大切にしながら、自分のよさを生かした話し方や接し方を身につける。 <p>[準備・課題]3～5歳児向けの絵本を2冊選び、読み聞かせの練習をする。(1h)</p> <p>第2回 読み聞かせの発表</p> <p>3～5歳児への読み聞かせと発展遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大勢の前の話しか方や伝えたいこと、育てたいこと等のポイントを修得する。 <p>[準備・課題]大型絵本・紙芝居を準備し発表ができるように効果的な構成や演じ方を練習する。</p> <p>第3回 大型絵本の読み聞かせ・紙芝居の学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの読み聞かせのポイントを理解して、伝えたいことを明確にもちながら、効果的な構成や演じ方を練習する。（年齢に即した内容、語り方や演じ方、表情や発展遊びなど） <p>[準備・課題]効果的な構成や演じ方をまとめる。(2h)</p> <p>第4回 すばなしの学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すばなしの意義、心をつかむすばなしの実践のポイントを習得する。 （年齢に即した内容、語り方や演じ方、表情など） <p>[準備・課題]年齢を設定し、すばなしの基礎を理解して効果的な話し方を練習する。(2h)</p> <p>第5回 すばなしの発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～5歳児への年齢に即した内容、ポイントを理解して実践をする。 （年齢に即した内容、語り方や演じ方、表情など） <p>[課題]他者に伝わる発表方法の工夫をまとめ練習をする。(2h)</p> <p>【現場体験】（4回）</p> <p>* 大垣市立北幼保園</p> <p>第1回 大垣市立北幼保園の見学、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自が体験した保育現場について気付いた点について話し合い発表する。 <p>[準備・課題]観察記録の整理(2h)</p> <p>第2回 大垣市立北幼保園の見学、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自が体験した保育現場について気付いた点について話し合い発表する。 <p>[準備・課題]観察記録の整理(2h)</p> <p>* わかたけ保育園</p> <p>第1回 わかたけ保育園の見学、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自が体験した保育現場について気付いた点について話し合い発表する。 <p>[準備・課題]観察記録の整理(2h)</p> <p>第2回 わかたけ保育園の見学、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自が体験した保育現場について気付いた点について話し合い発表する。 <p>[準備・課題]観察記録の整理(2h)</p>
時間外での学修	見学で得た子どもの実態について振り返り、子どもの姿に応じた手遊びや読み聞かせなどが行えるようにしてください。毎回学習した手遊び、読み聞かせ等は、次回までに自分のものにし、人前で演じることができますように、各自復習しておいてください。わからない時は、聞きにきてください。	
受講学生へのメッセージ	積極的に参加し、子どもの実態の把握と、豊かな表情、自分なりの表現力を身につけてください。オフィスアワーは各教員の時間を確認してください。	

【1C3S219】保育技術演習		幼児教育学科		1年後期		
教員	名和 孝浩・大橋 淳子・立崎 博則	1単位	必修	演習	30時間	
資格・制限等	特になし					
授業内容	保育所・幼稚園等の集団生活では欠かせな「ペーパーサート」「スケッチブックシアター」「パネルシアター」等の活用方法を学びます。それと同時に、遊びを通して社会性を高めたり、保育入門で学んだノウハウを生かし、さまざまな活動を自然な流れで演じるお話の技術もマスターし、保育者としての感性や資質の向上を図ります。					
実務家教員	大橋：幼稚園教諭・保育士28年					
授業方法	この授業は、1「ペーパーサート」、2「スケッチブックシアター」、3「パネルシアター」の3つを、5コマずつ体験します。「スケッチブックシアター」は、制作と同時にその演じ方について学びます。「ペーパーサート」は、児童に向けて演じる楽しさを味わい、遊びの進め方を学びます。					
到達目標	知識・理解	児童になったつもりで、「ペーパーサート」「スケッチブックシアター」「パネルシアター」等を、仲間と共に楽しむことができる。				
	思考・判断・表現	豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者像を常に描き、研鑽に努めることができる。				
	技能	年齢や発達に応じた指導・援助等の保育技術を身につけることができる。				
	関心・意欲・態度	遊びや表現活動を通してコミュニケーション能力を身につけ、誰とでも柔軟に関わることができる。				
	備考	・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	演習態度	-	-	-	30	30
	達成度	30	-	-	-	30
	発表内容	-	-	30	-	30
	レポート	-	10	-	-	10
	合 計(点)	30	10	30	30	100
評価の特記事項	この科目は1「ペーパーサート」、2「スケッチブックシアター」、3「パネルシアター」を履修した上で合算し、単位数1単位の評価とします。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	発表時にコメントをします。					
テキスト						
参考書・教材	必要に応じて資料を配付します。					
実施回		授業内容・目標				
1 ~ 15	<p>【ペーパーサート】 第1回 ・オリエンテーション（この授業で学ぶこと、心構え、進め方等） ・ペーパーサート制作計画 [課題(準備)]インターネットや文献からペーパーサートについて調べる(1h)</p> <p>第2回 ・制作 [課題(準備)]制作に必要な教材を準備する(1h)</p> <p>第3回 ・制作 [課題(準備)]進捗に合わせて教材を準備する(1h)</p> <p>第4回 ・制作 [課題(準備)]保育教材を完成させ、発表できるようにする(1h)</p> <p>第5回 ・発表：まとめ [課題(準備)]他者に伝わる表現方法の工夫をまとめ練習をする(1h)</p> <p>【スケッチブックシアター】 第1回 ・スケッチブックシアターについて調べる、下書き、材料を用意 [課題(準備)]様々なアイディアを調べる。(1h)</p> <p>第2回 ・制作1 [課題(準備)]道具や材料を用意し制作環境を充実させる。(1h)</p> <p>第3回 ・制作2 [課題(準備)]道具や材料を用意し制作環境を充実させる。(1h)</p> <p>第4回 ・制作3 [課題(準備)]他者に伝わる発表方法の工夫をまとめ練習する。(1h)</p> <p>第5回 ・作成したスケッチブックシアターの発表と自己評価 [課題(準備)]他者に伝わる発表方法の工夫をまとめ練習する。(1-2h)</p> <p>【パネルシアター】 第1回 ・オリエンテーション（この授業で学ぶこと、心構え、進め方等） ・パネルシアター制作計画 [課題(準備)]インターネットや文献からペーパーサートについて調べる(1h)</p> <p>第2回 ・制作 [課題(準備)]制作に必要な教材を準備する(1h)</p> <p>第3回 ・制作 [課題(準備)]進捗に合わせて教材を準備する(1h)</p> <p>第4回 ・制作 [課題(準備)]進捗に合わせて教材を準備する(1h)</p> <p>第5回 ・発表：まとめ [課題(準備)]保育教材を完成させ、発表できるようにする(1h)</p>					

時間外での学修	「スケッチブックシアター」は、実習やボランティア活動等で繰り返し活用して技術を磨きましょう。 「パネルシアター」「ペーパーサート」は、実習や実務研修に利用できるように、遊び方、留意点等を各自ノートに整理しておきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:各分野5時間程度計15時間です。】
受講学生へのメッセージ	「パネルシアター」「ペーパーサート」「スケッチブックシアター」では様々な保育技術表現を調べ、自身の表現方法に活用しましょう。質問等は、授業で伝達する各教員のオフィスアワーを活用ください。

【1C3B221】幼児と健康		幼稚教育学科	1年後期			
1単位	必修		演習	30時間		
教員	垣添 忠厚					
資格・制限等	幼免・保資必修					
授業内容	幼児期に必要となる健康な心と体を育て、安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識や技能を身につけます。特に幼児の発達運動等において、幼児期の特徴や意義について学び、運動を実施することで健康に繋がる実践的な取り組みを中心とした演習となります。					
実務家教員						
授業方法	主に実技を中心とした演習となります。テーマによって、個人・グループ活動を行いながら、授業展開していきます。					
到達目標	知識・理解	乳幼児期の健康（発達・生活習慣等）について理解することができる。				
	思考・判断・表現	理想の保育者像を常に描き、創造的な身体活動をすることができる。				
	技能	感じたことや考えたことを自分なりに表現し、発表することができる。				
	関心・意欲・態度	豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。				
	備考	・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	レポート（毎回）	20	10	-	-	30
	自己評価（毎回）	-	10	10	10	30
	課題レポート	10	10	-	-	20
	受講態度	-	-	10	10	20
	合 計(点)	30	30	20	20	100
評価の特記事項	毎回提出するレポートと自己評価の内容を基に評価します。発表は、授業内において設定した発表の内容を総合的に評価します。受講態度は、取り組み姿勢を主に評価します。					
I C T活用	タブレット機器を活用して、自己の運動動作の分析を行います。					
課題に対するフィードバック	毎回のレポートの内容をまとめ、次時の授業で振り返りを行います。					
テキスト	『ひろみちお兄さんの運動遊び』佐藤弘道 世界文化社 ISBN:978-4-418-14717-5					
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、幼児体育、保育内容（健康）、資料は必要に応じて配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	乳幼児期の健康課題（乳幼児期の健康について学び、健康体操を実施する） 【課題（復習）】健康体操について調べ、乳幼児期の健康についてまとめる。（1h～2h）					
2	乳幼児の発達的特徴（乳幼児期の身体的・生理的機能の発達について学び、発達段階に沿った運動を実施する） 【課題（復習）】発達段階に沿った運動の内容をまとめる。（1h～2h）					
3	乳幼児の安全管理（安全教育と危険について実践的に学ぶ） 【課題（復習）】安全管理についてまとめる。（1h～2h）					
4	乳幼児期の応急処置・病気の予防（怪我の特徴と基本的な応急処置を学び、病気の予防になる運動を実施する） 【課題（復習）】乳幼児期の病気について調べ、応急処置の方法を身につける。（1h～2h）					
5	乳幼児期の運動発達（多様な動きについて学び、乳幼児期に必要な運動を実施する） 【課題（復習）】運動発達について調べ、乳幼児期に必要な運動についてまとめる。（1h～2h）					
6	日常生活における運動（社会の変化と生活の中の動きの経験等について学び、継続的にできる運動を探る） 【課題（復習）】継続的にできる運動についてまとめる。（1h～2h）					
7	あそびから運動へ 模倣あそび1（まねっこ、リズムに合わせて遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
8	あそびから運動へ 模倣あそび2（身近な物になりきって遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
9	あそびから運動へ からだあそび1（からだを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
10	あそびから運動へ からだあそび2（からだを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
11	あそびから運動へ こども体操（様々な音楽に合わせた体操を実践する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
12	あそびから運動へ 用具を使ったあそび1（ボールを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
13	あそびから運動へ 用具を使ったあそび2（新聞を使って遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
14	あそびから運動へ 用具を使ったあそび3（ロープ、フープを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
15	あそびから運動へ 運動遊具をつかったあそび（マット、平均台、鉄棒）を使って遊ぶことができる運動を実施する）、課題の確認 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
時間外での学修	普段の生活の中で、健康に関する情報を収集してください。また、子ども（特に乳幼児）の特徴的な身体活動をまとめておいてください。発表に向けて準備や練習を十分に行ってください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】					
受講学生へのメッセージ	自分自身が楽しく精一杯に活動ができるように、毎時間の活動に集中してください。 オフィスアワーは研究室（H203:H号館2F）で毎週金曜日12:15～12:45です。					

【1C3B223】幼児と言葉		幼稚教育学科		1年前期					
1単位		必修		演習					
教員	今村 民子								
資格・制限等	幼免・保資必修								
授業内容	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につけます。具体的には「言葉」の意義や機能についての理解を深めながら、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につけます。								
実務家教員	小学校、幼稚園教諭9年								
授業方法	演習								
到達目標	知識・理解	言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解したり、幼児の発達における児童文化財の意義について理解する							
	思考・判断・表現	言葉の楽しさや美しさ、言葉の感覚を豊かにする実践、児童文化財について、基礎的な知識を身につける							
	技能	言葉遊びの種類を豊富にしたり、児童文化財（絵本、紙しばい）の具体的な作品に多く出合って知識を豊かにことができる							
	関心・意欲・態度	幼児の言葉に関心を持つ豊かな感性と教養を養い、常に研鑽に努めることができる							
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	受講参加態度	-	30	-	-	30			
	発表の姿	-	-	30	-	30			
	演習への姿勢	-	-	-	20	20			
	課題レポート	20	-	-	-	20			
	合 計(点)	20	30	30	20	100			
評価の特記事項	グループを作って「おはなし会」を行い発表の姿を評価します。課題レポートは「絵本ノート」の作成をして、作家についてや地域図書館についてなど調べた内容をまとめることもします。								
I C T活用									
課題に対するフィードバック	授業中に模範的な提出課題を示してコメントします。								
テキスト									
参考書・教材	'幼稚園教育要領' フレーベル館「保育所保育指針」フレーベル館「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレーベル館「ことばと表現力を育む児童文化」 川勝泰介他著 萌文書林								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	授業内容のオリエンテーション：人間にとての言葉の意義と機能。 [課題（復習）]今日の内容を振り返って、準備するものを確認し次回に備える。（1h）								
2	子どもは言葉をどのように獲得するのか？：DVDを視聴し内容について自分の意見を持つ。本の世界を広げる。 [課題（復習）]絵本など必要なものを準備する。「絵本ノート」を作成する。（1h）								
3	「言葉に対する感覚」とは何か（1）：年齢にふさわしい「絵本」について知識を広げる。 [課題（復習・準備）]今日の内容を自分のものにする。「絵本ノート」を作成する。（1h）								
4	「言葉に対する感覚」とは何か（2）：「絵本」のジャンルについて知ろう。[課題（復習）]今日の内容を自分のものにする。「絵本ノート」を作成する。（1h）								
5	言葉に対する感覚を豊かにする実践とは：言葉遊びのいろいろと保育への取り入れ方。 本の出版社から絵本を知ろう[課題（復習）]今日の内容を自分のものにする。「絵本ノート」を作成する。（1h）								
6	言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際：「だるまさんが」の作者かがくいひろしについて紹介し、絵本にある言葉の感覚について考える。[課題（復習）]好きな絵本作家を選んでレポートを作成する。「絵本ノート」を作成する。（1h）								
7	言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」とは何か：子どもにとっての児童文化財の意義を学ぶ。絵本の季節について知ろう。[課題（復習）]今日の内容を自分のものにする。「絵本ノート」を作成する。（1h）								
8	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（絵本）の実際1：絵本の種類や歴史、保育への取り入れ方にについて学ぶ。プレゼント絵本の紹介。<ペアワーク>。[課題（復習）]今日の内容を自分のものにする。「絵本ノート」を作成する。（1h）								
9	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（絵本）の実際2：絵本の種類や取り入れ方についてグループワークをする。マイ図書館の発表。[課題（復習）]今日の内容を自分のものにする。「絵本ノート」を作成する。（1h）								
10	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（絵本）を用いた実践：読み聞かせまでの準備や大切にしたいことを学ぶ。[課題（復習）]今日の内容を自分のものにする。「絵本ノート」を作成する。（1h）								
11	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動計画1：おはなし会の計画をしよう。おはなし会の3人グループを作り、計画内容を交流をする。[課題（復習）]おはなし会の計画案を作成する。（1h）								
12	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動計画2：グループワークで計画案を実施して、内容を確認したり変更したりする。[課題（復習）]おはなし会の計画案を再作成する。（1h）								
13	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動計画3：おはなし会発表で使う手遊びを覚えて、全体の構成を確かなものにする。。[課題（復習）]今日の内容を自分のものにする。作成案を基にしておはなし会の構成を確かめ、練習する。（1h）								
14	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動の実践1：おはなし会でグループ、ごとに発表する。聞く人は評価票を記入してメッセージを渡す。[課題（復習）]今日の内容を自分のものにする。（1h）								
15	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動の実践1：おはなし会でグループ、ごとに発表する。聞く人は評価票を記入してメッセージを渡す。[課題（復習）]今日の内容を自分のものにする。（1h）								

時間外での学修	絵本や紙芝居を中心とした児童文化財に関心を持って触れる努力をしましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	絵本や紙芝居は子どもにとって心の栄養になるものです。学生のみなさんも自分の心を豊かにするためにたくさん絵本や紙芝居に触れ、子どもへ向けて発信できる保育者に成長できるような授業にしたいと思っています。オフィスアワー：H204研究室金曜16:20～17:00

【1C3B224】音楽・基礎		幼稚教育学科		1年前期		
教員	光井 恵子・春日 有貴江・佐々 智美・日比 裕美子・加藤 有子・竹内 美樹	1単位	必修	演習	30時間	
資格・制限等	特になし					
授業内容	教育者、保育者になるために必要な音楽を基礎から学び、幅広い音楽性や表現する力を身に付けていきます。クラス授業では教育や保育に必要な音楽理論を中心に学び、個人レッスンでは各自の進度に応じてピアノの基礎技術を学びます。					
実務家教員						
授業方法	二つのグループに分け、クラス授業とピアノの個人レッスン(ピアノ実技)を行います。グループ毎に教室が異なりますので、しっかり確認して受講してください。					
到達目標	知識・理解	教育者、保育者になるために必要な音楽基礎知識を理解し説明することができる。				
	思考・判断・表現	音楽の楽しさを表現することができる。				
	技能	保育におけるピアノ演奏技術の基本を身につける。				
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	確認テスト	20	-	-	-	20
	課題レポート	-	15	-	-	15
	実技試験	-	-	20	-	20
	受講態度	-	15	-	30	45
	合 計(点)	20	30	20	30	100
評価の特記事項	クラス授業：確認テスト、課題レポート、受講態度で評価をします。 ピアノ実技：実技試験、受講態度で評価します。 受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況、提出物などから総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	クラス授業：毎回課題の質疑については授業内でフィードバックしていきます。また確認テストやレポートは添削を行い、必要に応じてコメントをしていきます。 個人レッスン：毎回授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を示していきます。					
テキスト	『(A)：改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』神原雅之 鈴木恵津子 教育芸術社ISBN:9784877888220 『(B)：教職課程のための 大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』大学教育音楽研究グループ 教育芸術社ISBN:9784905700333 (A)：全受講者購入して下さい。 (B)：『バイエル教則本』終了者、または終了程度の方は、各自のレベルに合わせた楽譜（各自所有の楽譜等）を持参しレッスンを行います。そのため(B)の楽譜は購入する必要がありません。					
参考書・教材	『ブルクミュラー25の練習曲』『ソナチネアルバム1』等 必要な資料は授業で配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	クラス授業：楽譜の仕組みについて(1)譜表、音名 [課題・準備]譜表、音名を覚え、ピアノ練習に活用する 個人レッスン：クラス分けとミーティング 各自のレベルに合わせたレッスン（選曲と今後の方針） [課題・準備]次の授業でのレッスン曲を練習する (1~2h)					
2	クラス授業：楽譜の仕組みについて(2)音符、休符、拍子、小節 [課題・準備]音符や休符の種類や名前を覚え、ピアノ練習に活用する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [課題・準備]レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)					
3	クラス授業：音楽の仕組みについて(1)[音程]単音程 2・3度音程 [課題・準備]学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [課題・準備]レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)					
4	クラス授業：音楽の仕組みについて(2)[音程]単音程 6・7度音程 [課題・準備]学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [課題・準備]レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)					
5	クラス授業：音楽の仕組みについて(3)[音程]単音程 1・4・5・8度音程 [課題・準備]学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [課題・準備]レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)					
6	クラス授業：音楽の仕組みについて(4)[音程]派生音を含む音程と複音程音楽の仕組みについて グループワークをして修得した内容を確認しあう [課題・準備]学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [課題・準備]レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)					
7	クラス授業：確認テスト [課題・準備]学習した内容を復習する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [課題・準備]レッスン内容の復習とレッスン曲の予習(1~2h)					

実施回	内容
	授業内容・目標
8	クラス授業：音楽の仕組みについて（5）音階 【課題・準備】学習した内容を復習し、各調の音階を鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） 【課題・準備】レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)
9	クラス授業：音楽の仕組みについて（6）和音の種類 【課題・準備】学習した内容を復習し、和音を鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） 【課題・準備】レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)
10	クラス授業：音楽の仕組みについて（7）和音記号 【課題・準備】学習した内容を復習し、和音を鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） 【課題・準備】レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)
11	クラス授業：和音とコードの関係 【課題・準備】学習した内容を復習し、コードを鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） 【課題・準備】レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)
12	クラス授業：基本的なコード 【課題・準備】学習した内容を復習し、コードを鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） 【課題・準備】レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)
13	クラス授業：コードネームの見分け方 【課題・準備】学習した内容を復習し、コードを鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせた個人レッスン（試験に向けて課題曲の練習） 【課題・準備】レッスン内容の復習とレッスン曲の予習、試験曲の練習 (1~2h)
14	クラス授業：確認テスト 【課題・準備】学習した内容を復習する ピアノ実技：各自のレベルに合わせたレッスン（試験に向けて課題曲の練習） 【課題・準備】レッスン内容の復習とレッスン曲の予習、試験曲の練習 (1~2h)
15	クラス授業：前期に学修した内容の総復習 【課題・準備】総合的に復習し、前期全体のまとめをする 個人レッスン：実技試験 【課題・準備】試験曲の復習 (1~2h)
時間外での学修	教育者、保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身につけていきますので、ピアノの練習は毎日行い、積極的に予習・復習に取り組んでください。質問等があれば、研究室（A307：A号館3F）へきてください。
受講学生へのメッセージ	音楽をしっかり学び、その技術・技能を身につけることは、保育者として指導力に大きく関わります。体調を常に整えて、遅刻、欠席しないように心がけましょう。爪はしっかり切っておいてください。 オフィスアワーは研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日の16：10から16：40です。

【1C3S225】幼児と音楽表現		幼稚教育学科	1年後期			
教員	1単位 必修 演習 30時間					
光井 恵子・小川 寿実子・春日 有貴江・竹内 美樹・佐々 智美・日比 裕美子						
資格・制限等	幼免・保資必修					
授業内容	領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境構成について実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付けます。					
実務家教員						
授業方法	クラス授業では、領域「表現」の意義や内容を考えたり、保育現場での様々な音楽での表現活動の方法を学びながら自身の感性を高めていきます。また表現活動を展開させるための知識技能を個人レッスンで身に付けていきます。					
到達目標	知識・理解	幼児の表現の姿やその発達を理解することができます。				
	思考・判断・表現	様々な表現（身体・音楽）の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにします。				
	技能	様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができます。				
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	ポートフォリオ	-	20	-	20	40
	表現活動の発表	-	20	20	-	40
	レポート	20	-	-	-	20
	合 計(点)	20	40	20	20	100
評価の特記事項	学びの過程はポートフォリオ等(40%)、学びの成果は表現活動の発表(40%)とレポート(20%)で評価していきます。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	クラス授業：課題の質疑については授業内でフィードバックしていきます。 個人レッスン：授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を提示していきます。					
テキスト	『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』神原雅之、鈴木恵津子 教育芸術社 ISBN:9784877888220 1年前期(音楽・基礎)の授業で使用した教科書を引き続き使用していきます。					
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、必要に応じて資料を配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	領域「表現」のねらい及び内容の理解と知識技能の修得 ・幼児期の遊びや生活での領域「表現」における「身体・音楽表現」の位置付けについて理解するために、自分自身の表現を振り返りとともに、表現の源を考える。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習(1~2h)					
2	「表現の源に出会う」の体験と知識技能の修得 ・表現の源に出会い、「感じる・気付く・考える」体験を通して、表現の生成過程を分析的に捉え、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
3	「自然との対話」の体験と知識技能の修得 ・身近な自然やその素材の特性に触れ、感じる、みる、聞く、楽しむことを通してイメージを豊かにする ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
4	「素材との対話」の体験と知識技能の修得 ・身近な素材に身体の諸感覚を通じて触れ、その特性を生かして身体・音楽表現の様々な表現体験をし、幼児の表現活動の展開する可能性を探る。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
5	「生活との対話」の体験と知識技能の修得 ・多様性に着目し、身近な遊びや生活に心が動いたことをもとに、香りや味わいなどのイメージを持ちながら身体・音楽などで表現する。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
6	「他者との対話」の体験と知識技能の修得 ・表現は対象への呼びかけと応答でコミュニケーションとして成立することを体験し、表現の生成する過程を分析的に捉え、楽しさを生み出す要因についても分析する。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
7	「環境との対話」の体験と知識技能の修得 ・身体の諸感覚を通して環境と対話し、感受性（気付き・思考・イメージ）を豊かにし、環境と表現の関わりについて理解する。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
8	<p>「幼児の表現」の理解と知識技能の修得 ・幼児の表現行為とは何かを考えるため、幼児の表現活動を鑑賞する。幼児の素朴な様々な表現を見出しあけ止め、共感しながらその行為を分析する。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)] 学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1~2h)</p>
9	<p>「文化との対話」の体験と知識技能の修得 ・様々な表現方法を知るために、文化的な表現活動の作品を鑑賞し、幼児の表現活動を支えるための感性を豊かにする。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)] 学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1~2h)</p>
10	<p>音楽遊びの視点から「学び」を考える ・鍵盤楽器を用いて音の響きやハーモニーの美しさを体験しながら、様々な鍵盤楽器の奏法を身に付ける 。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)] 学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1~2h)</p>
11	<p>音楽遊びの視点から「学び」を考える ・鍵盤楽器を用いて音の響きやハーモニーの美しさを体験しながら、実践的な展開例を考える。 ・表現活動を展開させるための実践的な表現方法を考える。 [課題(予習・復習)] 学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1~2h)</p>
12	<p>音楽遊びの視点から「学び」を考える ・簡単な楽器を用いて幼児の発達に合わせたリズム遊びを考える。また様々な楽器の奏法を身に付ける。 ・表現活動を展開させるための実践的な表現方法を考える。 [課題(予習・復習)] 学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1~2h)</p>
13	<p>音楽遊びの視点から「学び」を考える ・様々な楽器を用いて幼児の発達に合わせたリズム遊びやアンサンブルの展開を考える。 ・表現活動を展開させるための実践的な表現方法を考える。 [課題(予習・復習)] 学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1~2h)</p>
14	<p>ICTの活用 ・ICTを活用した具体的な表現活動をグループで考える。 ・表現活動を展開させるための実践的な表現方法を考え、発表するための準備をする。 [課題(予習・復習)] 学修した内容の確認、発表に向けての練習 (1~2h)</p>
15	<p>ICTの活用(発表)とまとめ ・ICTを活用した表現活動を発表し、学修のまとめをする。 ・表現活動を展開させるための実践的な表現方法を考え、発表に向けて仕上げていく [課題(予習・復習)] 学修した内容の確認、発表に向けての練習 (1~2h)</p>
時間外での学修	<p>保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身に付けていきますので、毎日練習を行い、積極的に予習、復習に取り組み、弾き歌いできるレパートリー曲を増やしてください。 質問等があれば、研究室(A307:A号館3F)へきてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>表現活動するにはまずは自分自身が感性を豊かにすることです。常に五感を意識して生活をしましょう。 また、積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていくので、常に体調を整えて遅刻、欠席をしないように心がけましょう。 オフィスアワーは研究室(A307:A号館3F)で毎週木曜日16:10~16:40です。</p>

【1C3B230】造形・基礎		幼稚教育学科	1年前期			
1単位	必修		演習	30時間		
教員	立崎 博則					
資格・制限等	特になし					
授業内容	造形あそびや造形表現について、制作活動を通して基礎的な知識と技能を学ぶ。					
実務家教員						
授業方法	制作活動の体験と、課題となる作品制作を通じ、その学びをまとめる。					
到達目標	知識・理解	多様な創作活動を体験し、幼児の造形あそびや表現の位置付けについて説明できる。				
	思考・判断・表現	グループでの制作を通じ、他者の考え方や表現を受け止め共感し、協力し表現する重要性を説明できる。				
	技能	作ることを積極的に楽しみ、基礎的な知識・技能を用い表現ができる。				
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし、表現を楽しむことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	作品	-	20	10	-	30
	レポート	30	-	-	-	30
	ポートフォリオ	10	20	-	10	40
	合 計(点)	40	40	10	10	100
評価の特記事項	授業で説明します。					
I C T 活用	Googleフォームやポートフォリオサイトを使い、作品などのフィードバックを行います。					
課題に対するフィードバック	作品鑑賞をコメントする時間を持ちます。授業内でレポートなどのふりかえりを行います。					
テキスト	必要な資料は授業で配布します。					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	造形活動のねらいって何だろう ・「作る」を通して豊かな感性と創造性を考える [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録し自分の「好き」を増やしプリント課題に取り組む。(1~2h)					
2	造形活動を体験する ・基本的な道具の使い方 ・コミュニケーションと制作 制作概要の説明 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1h)					
3	造形活動を体験する ・基本的な道具の使い方 ・コミュニケーションと制作 制作1 下絵を描こう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1~2h)					
4	造形活動を体験する ・基本的な道具の使い方 ・コミュニケーションと制作 制作2 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1h)					
5	造形活動を体験する ・基本的な道具の使い方 ・コミュニケーションと制作 制作3 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1h)					
6	造形活動を体験する ・基本的な道具の使い方 ・コミュニケーションと制作 制作4 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1h)					
7	造形活動を通した表現を体験する 素材で遊ぼう1 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、自分の表現の参考にすることについて課題に取り組む。(1h)					
8	造形活動を通した表現を体験する 素材で遊ぼう2 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、グループ制作の参考にすることについて課題に取り組む。(1h)					

実施回	内容
	授業内容・目標
9	造形活動を通した表現を体験する 素材で遊ぼう3 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、グループ制作の参考にすることについて課題に取り組む。(1h)
10	協力して「作る」を体験する ・身近な素材を使いグループで作品制作 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1h)
11	協力して「作る」を体験する ・身近な素材を使いグループで作品制作 制作1 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1h)
12	協力して「作る」を体験する ・身近な素材を使いグループで作品制作 制作2 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1h)
13	協力して「作る」を体験する ・身近な素材を使いグループで作品制作 制作3 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1h)
14	協力して「作る」を体験する ・身近な素材を使いグループで作品制作 制作4 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用した作品展示について考える。(1h)
15	自分の制作を振り返る ・自分の制作ふりかえり [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、自分の制作について課題を行う。(1h)
時間外での学修	日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現のヒントになる気づきをまとめてきてください。 定期的におりがみ課題を実施します。練習しつつでも披露できるよう準備してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」（豊かな感性）を一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」（創造力）を支えることができるよう、造形表現の指導法について向き合ってください。 オフィスアワーは、研究室（H201）にて金曜日昼休みです。

【1C3S231】幼児と造形表現		幼稚教育学科	1年後期			
1単位	必修		演習	30時間		
教員	立崎 博則					
資格・制限等	幼免・保資必修					
授業内容	造形あそびや造形表現について、制作活動を通して基礎的な知識と技能を使い、グループワークや魅せる（発表する・展示する）ことについて学ぶ。					
実務家教員						
授業方法	制作活動や発表の体験と、課題となる作品制作を通し、その学びをまとめる。					
到達目標	知識・理解	多様な創作活動を体験し、幼児の造形あそびや表現活動について自分の考えを言える。				
	思考・判断・表現	発表や鑑賞を通して、共感や感動の表現に対しての重要性を説明できる。				
	技能	作ることを積極的に楽しみ、様々な道具や素材を使い表現ができる。				
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし、表現を楽しむことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	作品	-	20	10	-	30
	レポート	30	-	-	-	30
	ポートフォリオ	10	20	-	10	40
合 計(点)		40	40	10	10	100
評価の特記事項	授業で説明します。					
I C T 活用	Googleフォームやポートフォリオサイトを使い、作品などのフィードバックを行います。					
課題に対するフィードバック	作品鑑賞をコメントする時間を持ちます。授業内でレポートなどのふりかえりを行います。					
テキスト	必要な資料は授業で配布します。					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	子どもに伝える表現を探求する ・自己紹介のための造形作品 ・参考作品を見る 制作概要の説明 [課題(準備)]実習時の自己紹介についてアイディアをまとめる。(1h)					
2	子どもに伝える表現を探求する ・自己紹介のための造形作品 制作1 [課題(準備)]実習時の自己紹介の作品について伝える工夫をまとめる。(1h)					
3	子どもに伝える表現を探求する ・自己紹介のための造形作品 制作2 [課題(準備)]実習時の自己紹介の作品について伝える工夫をまとめる。(1h)					
4	子どもに伝える表現を探求する ・自己紹介のための造形作品 制作3 [課題(準備)]実習時の自己紹介の作品について伝える工夫をまとめる。(1h)					
5	子どもに伝える表現を探求する ・自己紹介のための造形作品 発表1 [課題(準備)]実習時の自己紹介の作品について伝える工夫をまとめる。(1h)					
6	子どもに伝える表現を探求する ・自己紹介のための造形作品 自己評価とレポート [課題(準備)]実習時の自己紹介の発表について伝える工夫をまとめる。(1h)					
7	「協力して作る」を探求する ・季節や行事に向けての制作 グループワークを工夫する 制作概要の説明 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)					
8	「協力して作る」を探求する 季節や行事に向けての制作 グループワークを工夫する 下絵の制作 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)					
9	「協力して作る」を探求する 季節や行事に向けての制作1 グループワークを工夫する [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)					
10	「協力して作る」を探求する 季節や行事に向けての制作2 グループワークを工夫する [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)					

実施回	内容
	授業内容・目標
11	「協力して作る」を探求する 季節や行事に向けての制作3 グループワークを工夫する [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)
12	「協力して作る」を探求する 季節や行事に向けての制作4 グループワークを工夫する [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)
13	「協力して作る」を探求する 季節や行事に向けての制作5 グループワークを工夫する [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)
14	「協力して作る」を探求する 季節や行事に向けての制作6 グループワークを工夫する [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)
15	「協力して作る」を探求する 季節や行事に向けて 発表とレポート [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)
時間外での学修	・子どもに伝えるための工夫について日々の生活の中で考えるようにしましょう。また、グループでの表現や制作について授業外でもコミュニケーションとることも意識するようにしてください。 ・定期的におりがみ課題を実施します。練習しいつでも披露できるよう準備してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」（豊かな感性）を一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」（創造力）を支えることができるよう、造形表現の指導法について向き合ってください。 オフィスアワーは、研究室（H201）にて金曜日昼休みです。

【1C4A404】保育実習 a		幼稚教育学科	1年後期			
教員	2単位 選択 実習 90時間					
資格・制限等	名和 孝浩・大橋 淳子・立崎 博則 保育必修 / GPA並びに既修得科目による制限有り					
授業内容	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。					
実務家教員	大橋：幼稚園教諭、保育士・28年					
授業方法	保育実習園でのオリエンテーション及び実習園での保育実習を90時間行います。なお、保育実習を履修する際、本学または、実習園で決められた事項を遵守できない場合は、実習を中止することがあります。					
到達目標	知識・理解	保育所の一日の流れを理解すると共に、実習施設や保育内容について学ぶ。				
	思考・判断・表現	子どもと共に活動しながら観察し、乳幼児理解に努め、その記録を日誌にまとめる。				
	技能	保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。				
	関心・意欲・態度	積極的に保育に参加し、保育士の役割について学ぶ。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実習日誌の評価	-	25	-	-	25
	実習園の評価	25	-	25	25	75
	合 計(点)	25	25	25	25	100
評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	実習園からの評価に基づいた実習課題のフィードバックを行う。					
テキスト	『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z 実践できる！ 保育所・施設・幼稚園・認定こども園実習テキスト』【監修】名須川 知子【編著】田中 卓也・松村 翁・小島 千恵子・岡野 聰子・中澤 幸子 萌文書林(1,980円) ISBN: 978-4-89347-360-8 なし					
参考書・教材	『実習の手引』 『幼稚園・保育所実習・こども園パーセプトガイド』わかば社 『保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1 ~ 15	第1回 実習園でのオリエンテーション 第2回 - 第8回 保育所での保育実習 (45時間) (1) 観察を中心とした実習 ・実習施設の概要を知る。 ・園児と共に活動しながら観察し、乳幼児理解に努める。 ・保育所における保育の資料を収集し、記録をとる。 ・安全に対する配慮、環境整備、清掃の仕方を知る。 第9回 - 第15回 保育所で保育実習 (45時間) (2) 補助的な参加・部分実習を中心とした実習 ・指導職員の補助的役割で保育に参加し、一日の流れを理解する。 ・保育計画・指導計画を理解する。 ・保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。 ・さまざまな幼児とコミュニケーションをとり、一人ひとりの発達への理解を深める。 ・部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し、課題をつかむ。 ・園行事に参加し、行事のあり方について考える。 ・まとめを行い、今後の課題を見つける。					
	・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の職員の指導を仰ぎましょう。					
	受講学生へのメッセージ 実習は体力がいります。日頃から健康に留意し、自己管理を怠りなく、十分体調を整えて意欲的に実習に取り組みましょう。 質問等は各担当教員のオフィスアワーを活用してください。					

【1C4S206】実習指導 a		幼稚教育学科		1年通年		
教員	名和 孝浩・大橋 淳子・立崎 博則	1単位	選択	演習	30時間	
資格・制限等	保資必修					
授業内容	保育士資格取得を目指す学生として、保育実習の意義や目的を理解し、保育実習に必要な基本的知識や態度を学び、課題を持って実習に取り組めるよう学びます。実習日誌、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習が充実するよう実習に関連する科目での学びも取り入れて知識や技能を修得します。					
実務家教員	大橋：幼稚園教諭、保育士・28年					
授業方法	講義と演習					
到達目標	知識・理解	保育所の一日の流れを理解すると共に、実習施設や保育内容について学ぶ。				
	思考・判断・表現	子どもと共に活動しながら観察し、乳幼児理解に努め、その記録を日誌にまとめる。				
	技能	保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。				
	関心・意欲・態度	積極的に保育に参加し、保育士の役割について学ぶ。				
	備考	・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	レポート	10	20	-	-	30
	小テスト	10	-	-	-	10
	実技試験	-	-	30	-	30
	提出物・受講態度	-	-	-	30	30
	合 計(点)	20	20	30	30	100
評価の特記事項						
I C T活用						
課題に対するフィードバック	実習に関する面談や事務手続き・実習記録に関する添削や個別指導を適宜行う。 実習事後指導により実習での学修内容をフィードバックする。					
テキスト	『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z 実践できる！ 保育所・施設・幼稚園・認定こども園実習テキスト』【監修】名須川 知子【編著】田中 卓也・松村 齋・小島 千恵子・岡野 聰子・中澤 幸子 茅文書林(1,980円) ISBN:978-4-89347-360-8					
参考書・教材	厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション・実習とは何か・保育実習までの準備と学び [課題(予習)]保育実習園について調べる。(1h)					
2	実習園を決める・保育実習の意義について学ぶ・保育ボランティアに向けての準備 [課題(予習)]保育実習園を決め、連絡をとり、内諾を受ける。(1~2h)					
3	保育ボランティアに行こう・保育ボランティアの心得について学ぶ ・保育ボランティアでの視点について学ぶ・個人情報の保護に関して学ぶ [課題(復習)]保育ボランティアの依頼と事前オリエンテーションに出向く。(2~3h)					
4	保育実習に向けて自身のめあてを決めよう ・保育ボランティアを振り返り、自身の課題に気づき、目標を立て見通しを持つ ・保育所の機能と目的についてまとめる [課題(復習)]保育ボランティアの振り返りをまとめ。(1~2h)					
5	保育所保育指針から学ぶ(1)・認定子ども園との相違について知る ・「総則」「子どもの発達」「保育の内容」について学ぶ [課題(予習)]保育所保育指針「総則」「子どもの発達」「保育の内容」を事前の読んでおく。(1~2h)					
6	保育所保育指針から学ぶ(2) ・「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」について学ぶ [課題(予習)]保育所保育指針「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」を事前に読んでおく。(1~2h)					
7	小テスト・保育の実際(1) 部分実習の考え方について学ぶ・指導案の立て方を学ぶ 指導案を立てて、模擬授業をする [課題(復習)]部分実習の指導案を考えておく。(1~2h)					
8	保育の実際(2)・自己紹介について考え、必要な準備をする [課題(予習)]必要な準備物を完成させる。(1~2h)					
9	実習日誌の書き方について学ぶ・実習日誌の書き方を学ぶ。デイリープログラムを、日誌に書く [課題(復習)]デイリープログラムを完成させる。(1h)					
10	実技の確かめ・保育園をイメージして手遊びをする・実習日誌の正しい書き方について確認をする [課題(復習)]手遊びの内容を考え、練習をしておく。(1~2h)					
11	実習生としての心構え(1)・園でのオリエンテーションを受ける時の視点を知る ・実習生としての実習態度、服装・身だしなみの確認をする。 [課題(予習)]事前オリエンテーションを受けるために必要な準備をする。(1~2h)					
12	実習生としての心構え(2)・実習のめあての確認・事務文書(身上書)の作成 [課題(復習)]身上書を完成させる。(1~2h)					
13	実習生としての心構え(3)・事務文書(訪問担当者への地図)の作成や取り扱いについて確認をする ・個人情報の保護について確認をする [課題(予習)]実習日誌や必要な書類の整理をしておく。(1~2h)					
14	まとめ・実習の目的と内容の確認・評価について・事務連絡 [課題(復習)]実習初日の持ち物の確認や自己紹介の練習をしておく。(2h)					
15	実習を終えて反省・実習を振り返り、めあての達成など自己評価をする ・実習園からのアドバイスなどを元に、今後の実習に向けて課題を明確に持つ [課題(復習)]実習振り返り票の記入をする。(1h)					

時間外での学修	実習に向けて、他の科目での学修も生かしながら準備を進めていきましょう。時間外の学修については、その都度指示をしますから、確実に課題を進めていきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。日頃から体調管理に努めると共に、心身の健康について日頃から意識しましょう。質問等は各教員のオフィスアワーを活用してください。

【1C4F212】ボランティア実践		幼稚教育学科	1~3年通年			
教員	松村 齋	1単位	選択			
資格・制限等	特になし					
授業内容	短大及び地域で行われる社会活動（こども祭、みずき祭、アクアウォークなど）や、本学の環境整備活動、保育関係の学会・研修会、シンポジウムなどに参加活動し、振り返りをおこなう。情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う。主体的・対話的で深い学びを促進する状態での学修活動を積極的に行い、ICTを活用した双方向型授業や自主学習支援なども必要に応じて実施する。					
実務家教員	学校教員 20年					
授業方法	活動参加及び振り返りの実施					
到達目標	知識・理解	社会の課題に気付き、適切に判断・行動することができる。				
	思考・判断・表現	学びの集積を自覚し、統合し活用することができる。				
	技能	さまざまな価値観に対応できる柔軟性を身につける。				
	関心・意欲・態度	社会に貢献する自明觀と責任感をもって、積極的に行動することができる。				
	備考	・・の記号は、DP・到達指標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	提出物(ポートフォリオ)	20	20	20	40	100
	合 計(点)	20	20	20	40	100
評価の特記事項	ポートフォリオの提出(100%)で評価する。 3年間で、(1)行事参加、(2)環境整備活動、(3)学会・研修会・シンポジウムへの参加等をおこない、ポートフォリオを提出する。					
ICT活用	活動後のレポート及び振り返りにより、個別に返答、もしくは全体の場でのフィードバックを行なう。					
課題に対するフィードバック						
テキスト	なし					
参考書・教材	特に指定はしませんが、学会などの催し、研究会などは案内します。 日頃から、教育・政治・経済など社会情勢などを知るための印刷物（新聞、関連誌）を身边な教材にしてください。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
15	方法：課題レポートの提出(100%)で評価する。 それぞれの活動を (1)行事参加 (2)環境整備活動 (3)学会・研修会、シンポジウムなどへの参加 の3分野に分類し、討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す。 3年間で (1)行事参加は30h以上（時間外活動） (2)環境整備活動は30回以上 (3)学会・研修会・シンポジウムなどへの参加は3回以上 を総合的にまとめた課題レポート(1つの行事につき所要時間1h程度)を提出する。					
時間外での学修	社会活動演習の種類によって、事前準備・学修が必要になってきます。 詳細については担当教員より連絡があります。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	社会活動に積極的に参加することによって、大学で学ぶ知識や技術を統合し、主体的・協同的な姿を備えた保育者になることを目的としています。 オフィスアワーは各教員の時間帯を参照。そのほか、必要な時にアカデミックアドバイザーに相談してください。					

【1C6F201】 ウィンドアンサンブル		幼児教育学科		1年前期		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・野々垣 行恵・長尾 洪基	2単位	選択必修	演習	60時間	
資格・制限等	特になし					
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ＆ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、前後期2回ずつの小長谷宗一客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の強化練習を実施する予定です。					
実務家教員						
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。					
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ＆ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。				
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上で多角的な視野と判断能力を身につけることができる。				
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。				
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し、円滑に練習を進めることができる。保育現場において、子どもの成長発達に応じた音楽活動についての指導や支援ができる保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。				
	備考	・・・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	-	10	50	-	60
	受講態度	-	-	-	10	10
	小テスト・提出物	10	10	-	10	30
	合 計(点)	10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援 (Googleフォーム、学生ポータル)					
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。					
テキスト	その都度配布					
参考書・教材	楽譜等その都度配布					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス 授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布、全体で譜読み、合奏。 【課題（準備・予習）】シラバスの熟読、音楽鑑賞用楽曲の譜読み、各自、楽器、衣装・譜面台・ファイル等配布物の整理。学修記録ノートの記入。（2h～4h）					
2	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）					
3	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）					
4	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）					
5	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心学修。 日時を変更して実施。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）					
6	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲仕上げ 定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 課題に書き換えて実施。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲（学外演奏用）のまとめ。定期演奏会用楽曲の個人練習。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）					
7	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。リズム・テンポを中心学修。 日時を変更して実施。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）					

内容	
実施回	授業内容・目標
8	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題(復習・予習)] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習(特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。 リズム・テンポを中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題(復習・予習)] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題(復習・予習)] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)
11	定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。リズム・テンポを中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)
12	定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲の個人練習(特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)
13	定期演奏会用楽曲配布・全体で仕上げ、合奏。リズム・テンポを中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)
14	定期演奏会用楽曲配布・全体で仕上げ、合奏。ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲の個人練習(特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)
15	前期実技試験、筆記試験を実施。学修記録ノートの記入。 [課題(復習)] 試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。(2h~4h)
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~60時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音樂作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【1C6F201】ウインドアンサンブル		幼児教育学科		1年後期	
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・長尾 洪基・野々垣 行恵	2単位	選択必修	演習	60時間
資格・制限等	特になし				
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ＆ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、後期2回の小長谷宗一客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の強化練習を実施する予定です。				
実務家教員					
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。				
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ＆ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。			
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏するまでの多角的な視野と判断能力を身につくことができる。			
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。			
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。保育現場において、子どもの成長発達に応じた音楽活動についての指導や支援ができる保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。			
	備考	・・・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。			
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度
	実技試験	-	10	50	-
	受講態度	-	-	-	10
	小テスト・提出物	10	10	-	10
					30
	合 計(点)	10	20	50	20
評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。				
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）				
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。				
テキスト	その都度配布				
参考書・教材	楽譜等その都度配布				
内容					
実施回	授業内容・目標				
1	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）				
2	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）				
3	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）				
4	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）				
5	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲仕上げ 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のまとめ、苦手箇所の個人練習。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）				
6	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にテンポの変化にも対応できるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）				
7	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習（特に他のパートとの調和を考えながら）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）				

内容	
実施回	授業内容・目標
8	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にテンポの変化にも対応できるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習 (特に他のパートとの調和を考えながら)。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲仕上げ 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のまとめ、苦手箇所の個人練習。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
11	定期演奏会用楽曲（全曲）の合奏。 【課題（復習・予習）】定期演奏会用楽曲（全曲）について、特にハーモニーや音程の正確性を高めながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所の反復練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
12	定期演奏会用楽曲（全曲）の合奏。 【課題（復習・予習）】定期演奏会用楽曲（全曲）について、特に表現記号、ダイナミクスの変化に注意しながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所の反復練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
13	定期演奏会用楽曲（全曲）の合奏。 【課題（復習・予習）】定期演奏会用楽曲（全曲）について、特に旋律部分、伴奏部分の音楽の違いに注意しながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所の反復練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
14	定期演奏会用楽曲（全曲）の合奏。 【課題（復習・予習）】定期演奏会用楽曲（全曲）について、特に時代背景や表現記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所の反復練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
15	後期実技試験及び筆記試験を実施。 【課題（復習）】試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。（2h～4h）
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～60時間】
受講学生へのメッセージ	音楽の多角的なとらえ方を学ぶために、「一つだけの答えではない」柔軟な発想を持つようにしましょう。授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組んでください。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。